

# 市役所周辺公共施設の再整備方針の 策定に係る市民アンケート調査の結果

## 目 次

アンケートの概要	1
回答者の属性	2
市役所周辺の公共施設	4
公共施設の再整備	19
まちなか居住	22
来訪者を増やす方法	27

平成25年10月

和歌山市

## ○アンケート回収結果 【期間：平成25年8月24日(土)～9月30日(月)】

- ①対象数 3,000件 (うち伏虎中学校区500件)
  - ・郵送分 3,000件(7月末現在の住民基本台帳から18歳以上の市民を等間隔無作為抽出)
  - ・実質郵送分 2,930件(宛名不明で郵送できなかったもの70部)
- ②回答数 1,174件
- ③回収率 約 39.13% (実質郵送分に対する回収率 約 40.07%)

### アンケートの概要

#### 回答者の属性

- ・居住区は伏虎中学校区17% (199件/1,174件)
- ・性別は女性が多く55%、男性42%
- ・年齢は40～69歳の中高年の回答が多い
- ・職業は会社員が多く約3割
- ・家族構成は2世帯家族が約5割

#### 市役所周辺の公共施設

##### ●広域を対象とした15施設

- ・利用されている5施設(年数回以上利用が約3割以上)  
市役所本庁舎、和歌山城(和歌山公園)、市民会館、市民図書館、市役所南別館
- ・やや利用されている3施設(年数回以上利用が約1～2割)  
中央駐車場、岡公園、こども科学館
- ・あまり利用されていない5施設(年数回以上利用が約5%)  
あいあいセンター、博物館、勤労者総合センター、児童女性会館、教育文化センター
- ・利用されていない2施設(年数回以上利用が約5%未満)  
子ども支援センター、八番丁館
- ・存在を知られていない施設(そもそも存在を知らなかった20%以上)  
八番丁館、教育文化センター、子ども支援センター、勤労者総合センター、あいあいセンター、児童女性会館

##### ●近隣地域を対象とした6施設

- ・近隣地域以外でも知られている4施設(そもそも存在を知らなかった約1割)  
城北公園、城北公園地下駐車場、京橋駐車場、本町公園
- ・近隣地域で使用されている2施設(そもそも存在を知らなかった約2割)  
雄湊公園、汀公園

#### 公共施設の再整備

- ・公共施設は、利用度・稼働率が低い施設は廃止、集約化・複合化で減少、民間ノウハウの活用
- ・未利用地等の市の資産の保有方法は、民間事業者に貸し出し、もしくは売却
- ・未利用地等の活用方法は、市と民間事業者が連携し、まちなか再生の中核となる場とする、もしくは、民間事業者に売却、貸与して民間に任せる(市が主体となることは望まれていない)
- ・活性化・再生のためには、商業施設、娯楽レジャー施設(公共施設の優先順位は低い)

#### まちなか居住

- ・まちなかエリア以外の地区でも約2割がまちなかエリアに住みたいというニーズがある
- ・住みたい理由は、働く世代では鉄道駅に近いこと、高齢者では買物に便利こと、歩いて生活できること
- ・住みたくない理由は、騒がしくて落ち着きがない、若い世代は買物など利便性がさほどよくない
- ・求める住宅は、戸建て、鉄道駅に近いマンション、子育て世代は駐車場付マンション
- ・歩いていける範囲には、スーパーマーケット、病院・診療所、銀行・郵便局
- ・多くの人がまちなかエリアに住むためには、1か所で全て揃うような商業施設、商店街などの買い物空間の充実、子どもが安心して遊べる公園・保育施設

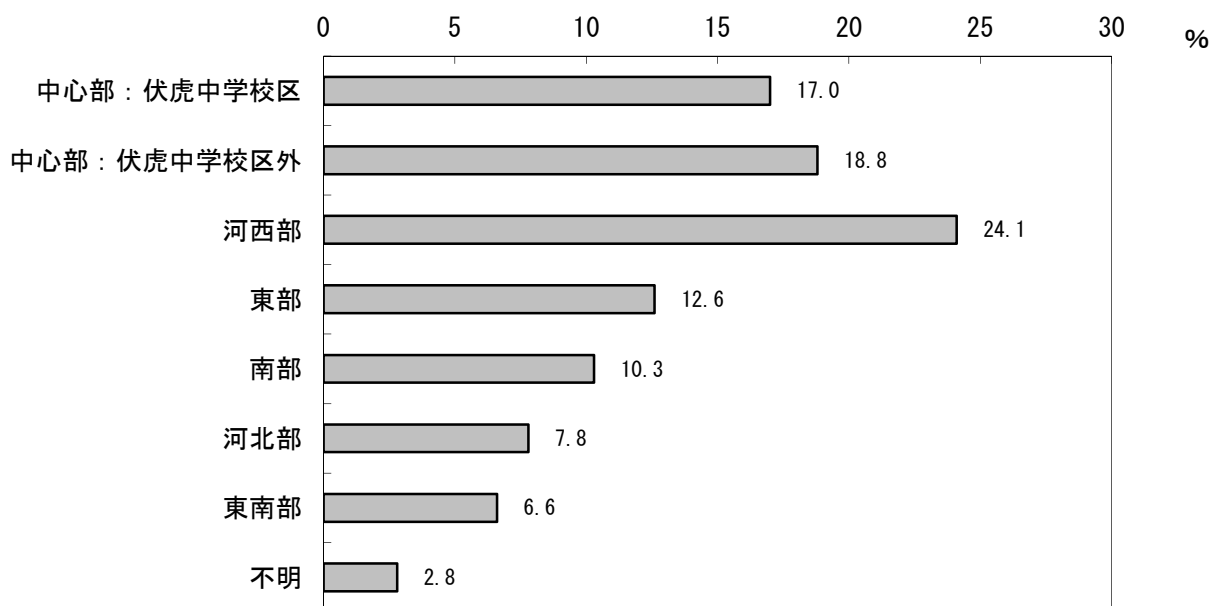
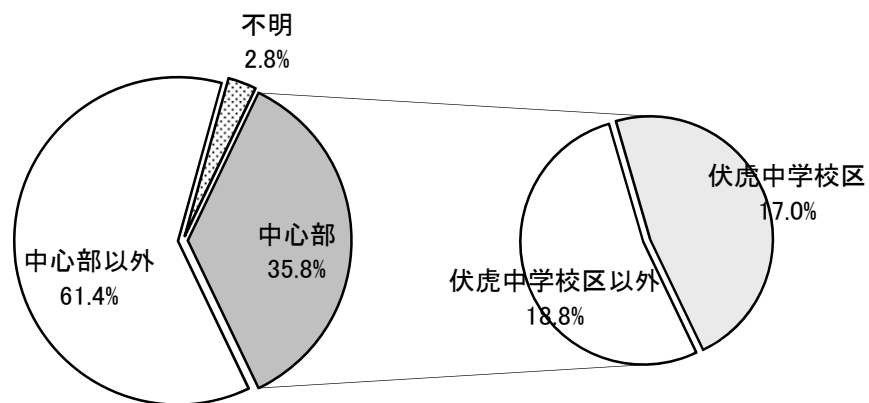
#### 来訪者を増やす方法

- ・普段まちなかエリアを訪れるのは、行政手続、次いで買い物、食事・飲み会、金融機関の利用
- ・まちなかエリアに回答者自身が訪れるのは、ショッピングセンター、美味しい飲食店、百貨店、デパート
- ・京阪神からの来訪者を増やすためには、和歌山城を活かした観光施設

## 回答者の属性 (N=1,174)

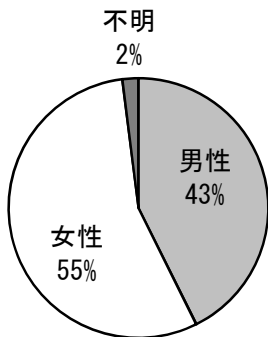
### 居住

居住区は、中心部が35.8% (420件)、中心部以外が61.4% (721件) となり、中心部の一部、伏虎中学校区内は17.0% (199件) となった。

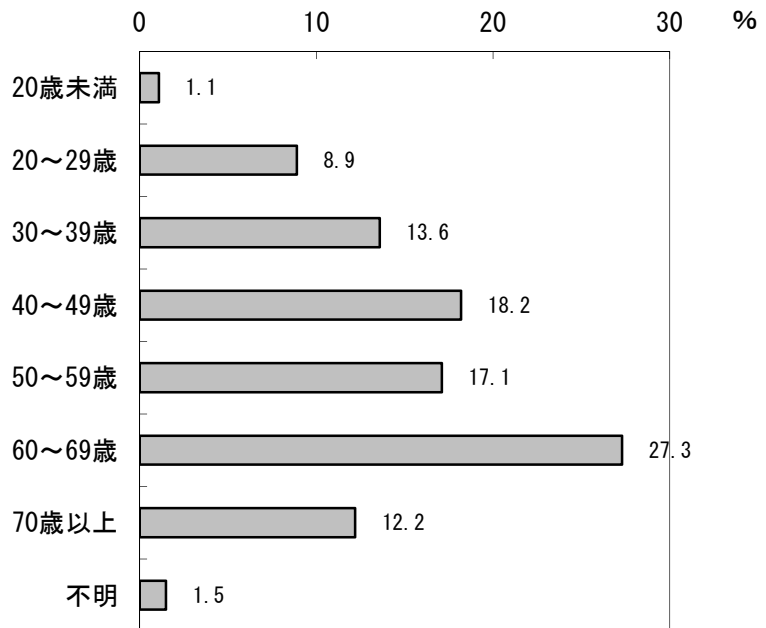


**性別**

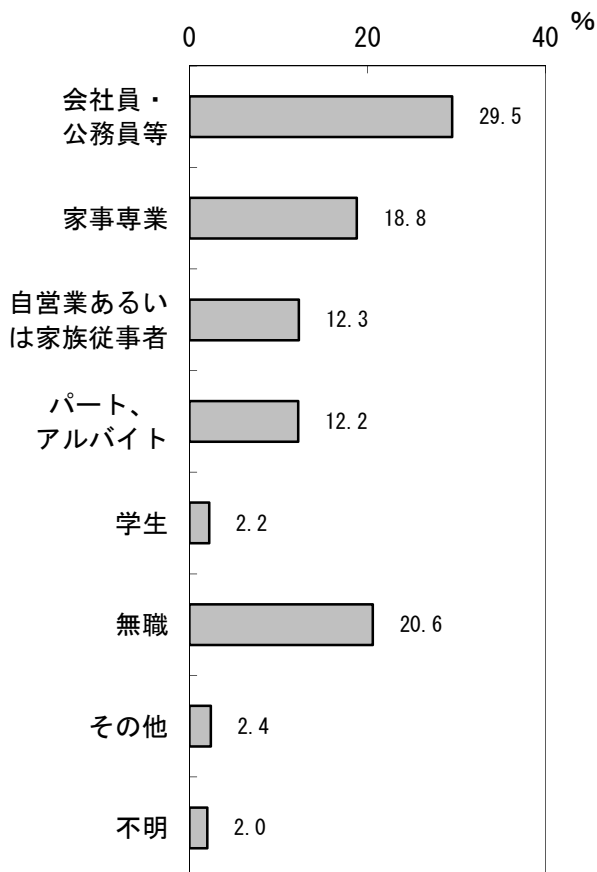
性別は、女性が55%(650人)で、男性43%(501人)と比べ12%(149人)多い。

**年齢**

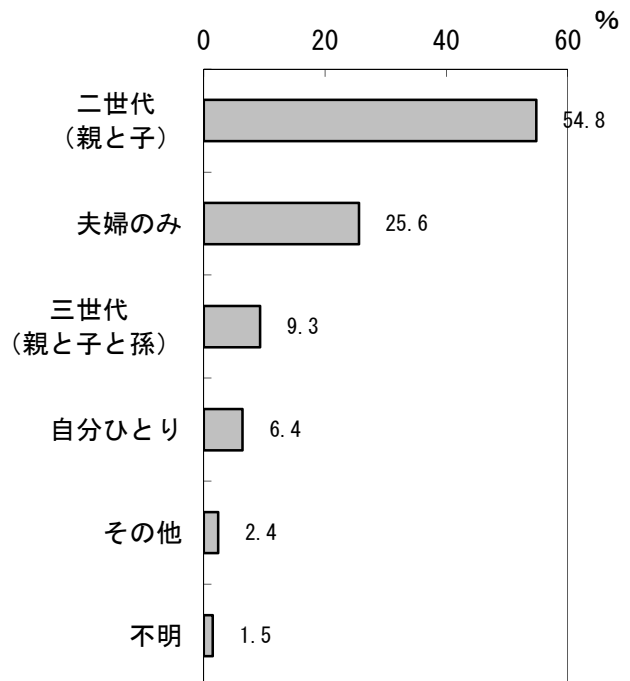
年齢は、60～69歳が27.3%(321人)で最も多い。市全体と比較すると、40～49歳、50～59歳が約5%多く、60～69歳も約12%多く、中高年の回答が多い。

**職業**

会社員等が多く約3割を占める。その他、家事専業とともに無職が多くそれぞれ約2割を占める。

**家族構成**

親と子の「二世帯」が多く54.8%と半数を占める。次いで「夫婦のみ」が25.6%と多い。



## 市役所周辺の公共施設

- ① 市役所周辺にある以下の公共施設の利用頻度は、次のどれに当てはまりますか。  
(各施設について、それぞれ1つに○)

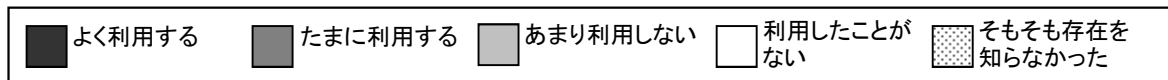
### 広域を対象とした施設

※「よく利用する」「たまに利用する」が占める割合で降順並び替え

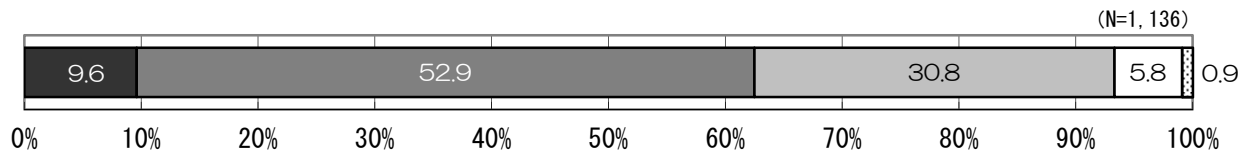
広域を対象とした施設は「市役所本庁舎」「和歌山城（和歌山公園）」「市民会館」「市民図書館」「市役所南別館」が、年数回以上利用（よく利用する、たまに利用するの合算）するとして回答が概ね3割以上で、相対的に利用頻度の高い施設となる。これに続く「中央駐車場」「岡公園」が約2割、「こども科学館」が約1割となる。

「あいあいセンター」「博物館」「勤労者総合センター」「児童女性会館」「教育文化センター」は年数回以上利用が約5%と少ない。これらは特定の目的をもつ施設が多いが、「博物館」以外は「そもそも存在を知らなかった」とする意見が概ね3割以上となっており、あまり認知されていない施設である。

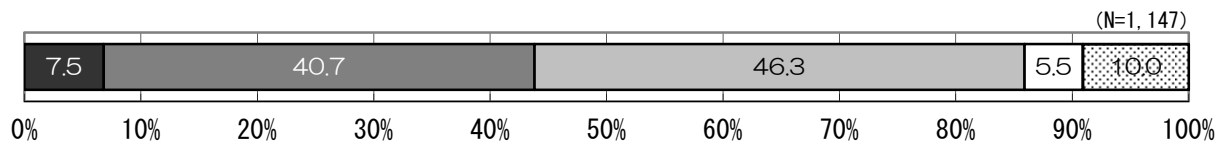
残る「子ども支援センター」「八番丁館」は、年数回以上利用が5%未満の利用で、そもそも存在を知らなかった」とする意見がそれぞれ3割、6割となっており、ほとんど利用されず、施設の存在そのもの知られていない施設である。



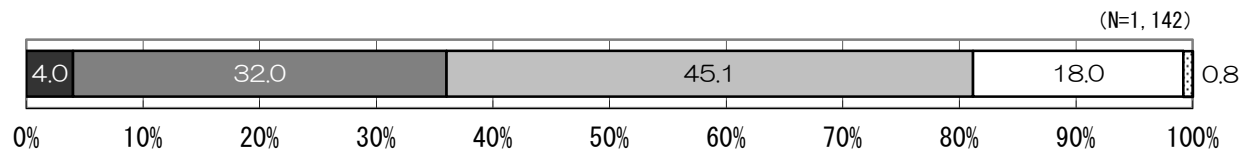
### 市役所本庁舎



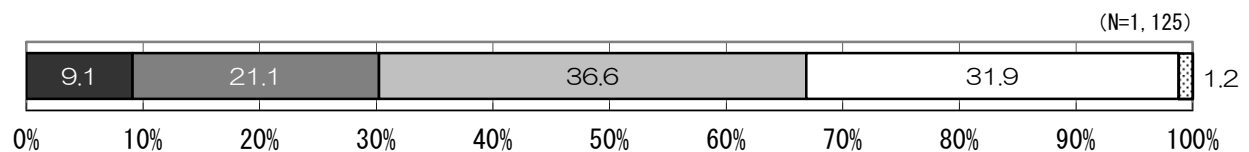
### 和歌山城(和歌山公園)



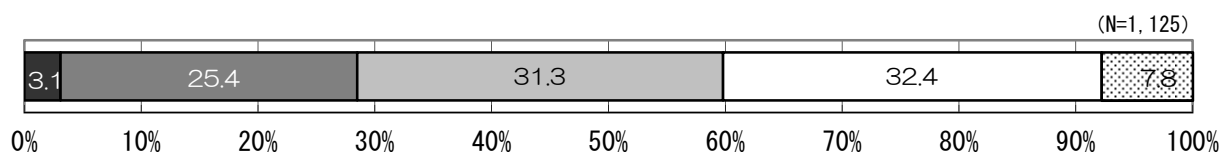
### 市民会館

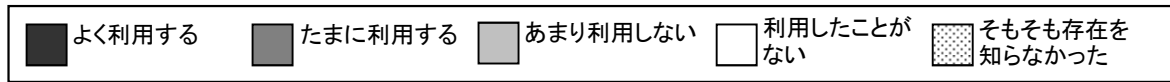


### 市民図書館

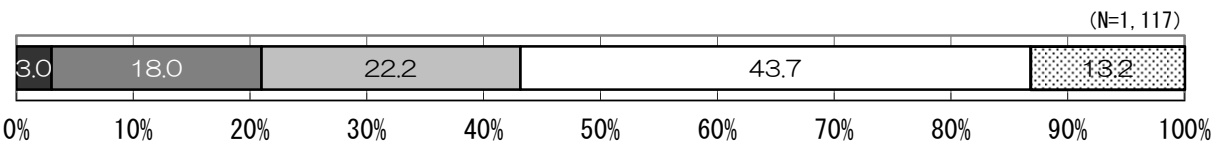


### 市役所南別館

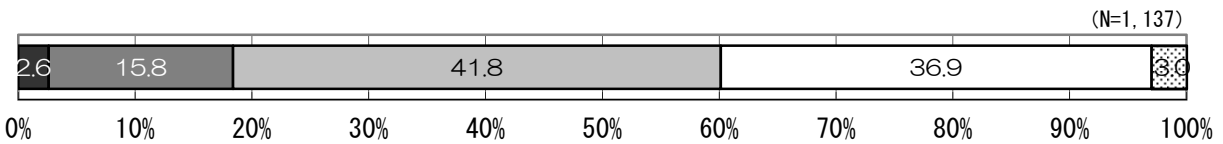




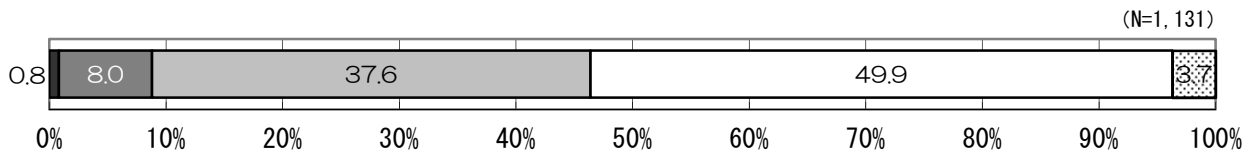
中央駐車場(市役所本庁付属)



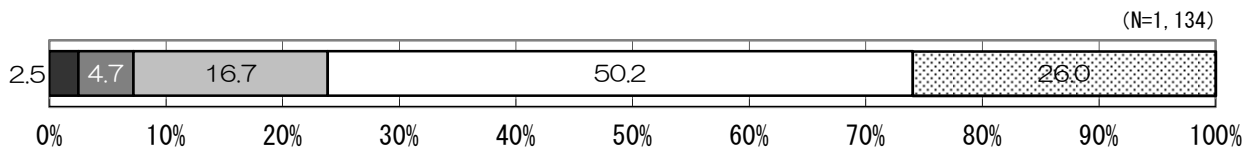
岡公園



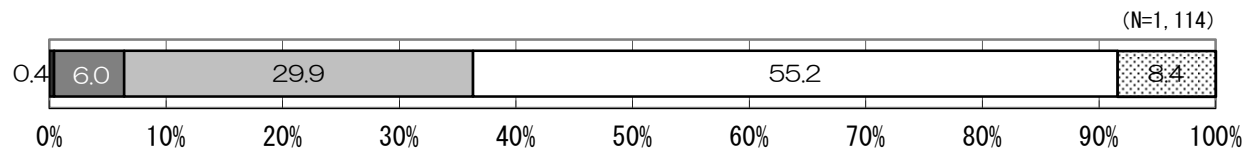
こども科学館



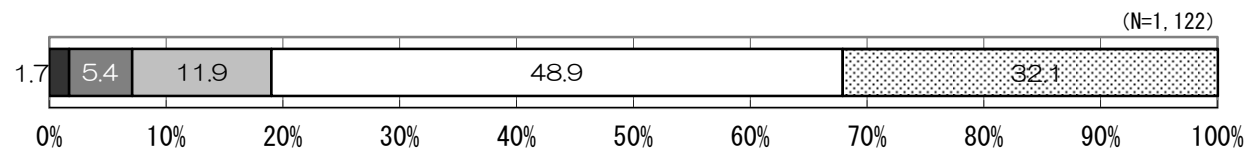
あいあいセンター



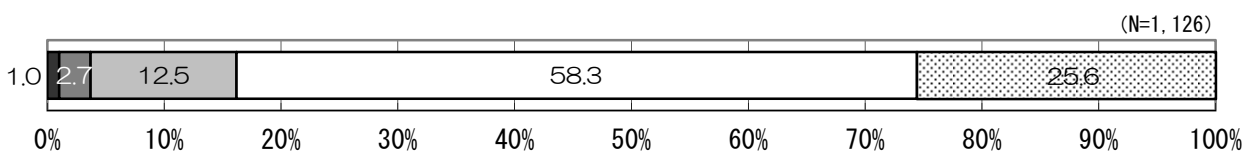
博物館



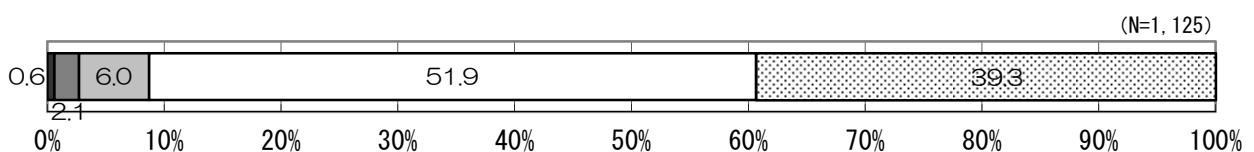
勤労者総合センター

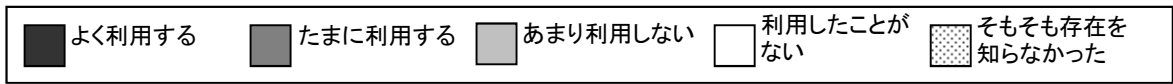


児童女性会館

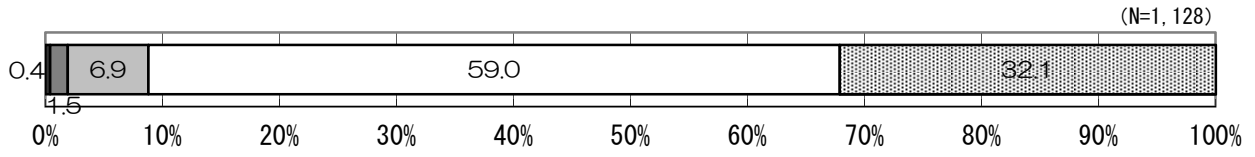


教育文化センター

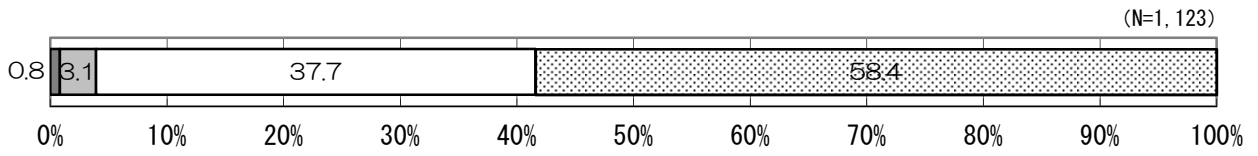




子ども支援センター



八番丁館

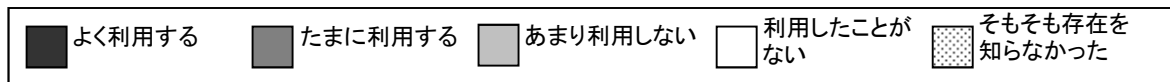


## 近隣地域を対象とした施設

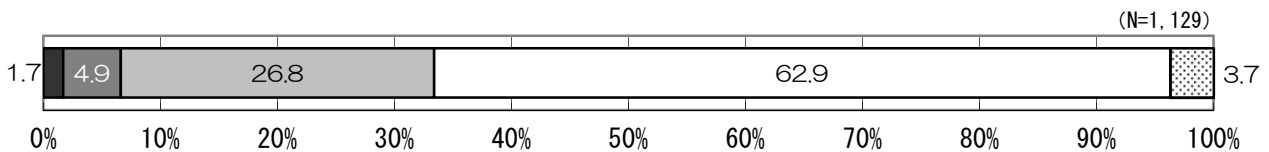
※「よく利用する」「たまに利用する」が占める割合で降順並び替え

近隣地域を対象とした施設は「城北公園」「城北公園地下駐車場」「京橋駐車場」「本町公園」が、年数回以上利用（よく利用する、たまに利用するの合算）するとした回答が概ね5%前後と低い。年1回以上利用するでは約3割が利用している。また、「そもそも存在を知らなかった」とする意見は約1割と少ない。これら施設は、近隣だけでなく市民に広く知られており、利用頻度は少ないが必要があれば利用する施設となっている。

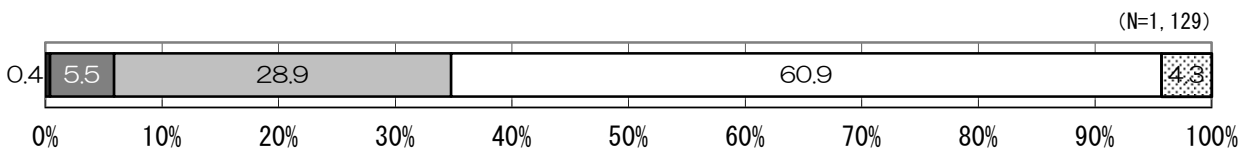
「雄湊公園」「汀公園」は、年数回以上利用が2～3%であり、年1回以上利用を含めても2割未満である。「そもそも存在を知らなかった」とする意見は約2割を超えており、近隣で利用される施設といえる。



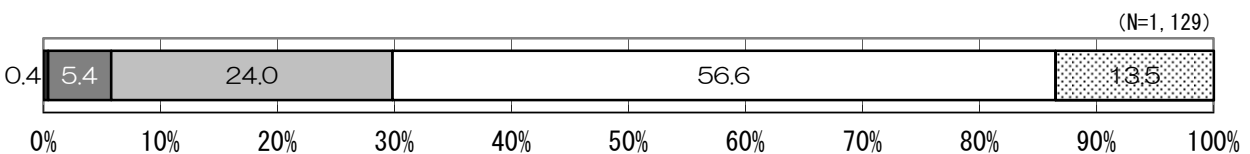
### 城北公園



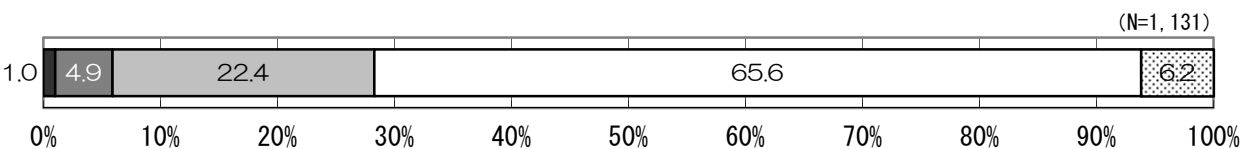
### 城北公園地下駐車場



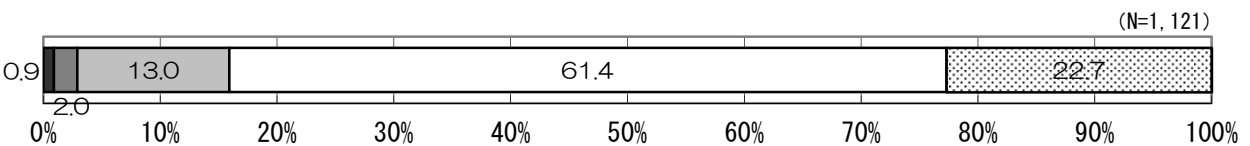
### 京橋駐車場



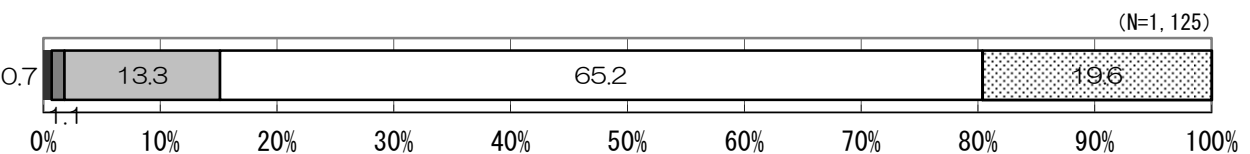
### 本町公園



### 雄湊公園



### 汀公園





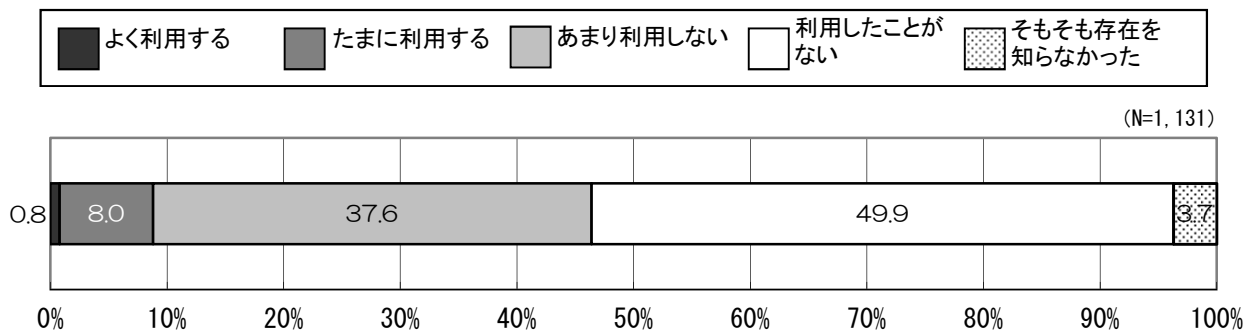
## <参考 8～18頁>

### 居住区別、年齢別で利用の動向に特徴が見られる施設を抜粋し、再掲

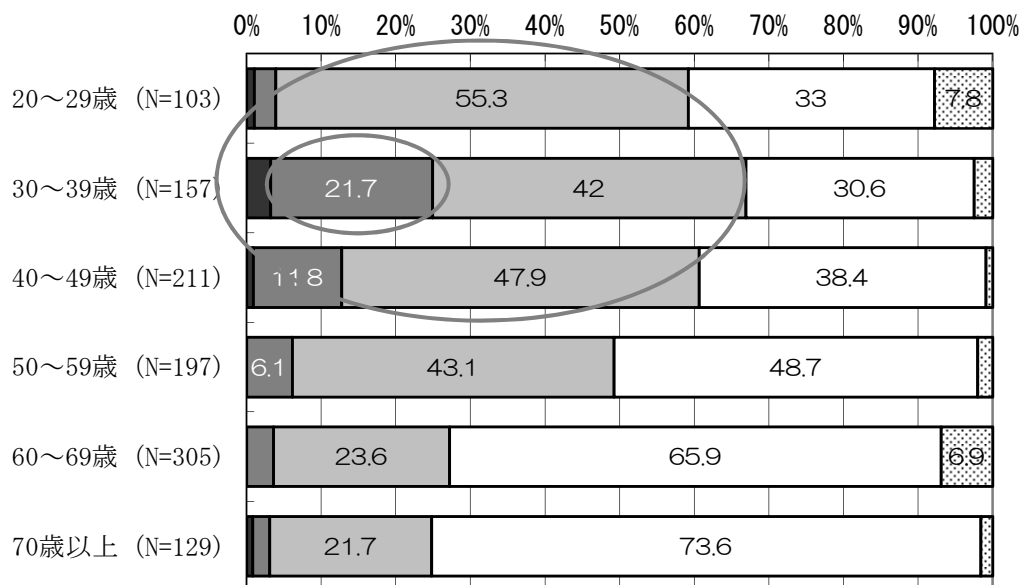
#### こども科学館

こども科学館は、年数回以上利用するが8.8%であるが、年1回以上利用では約46.4%の人が利用している。

年齢別では、20～49歳の子育て世代では年1回以上利用が約6割となっており、特に30～39歳では年数回利用するが2割となっている。また存在を知らなかったとする意見は全ての年齢で10%以下となっており、子どもの施設という特殊性から利用者は一定年齢層に集中するが、市民に広く認知されている施設といえる。



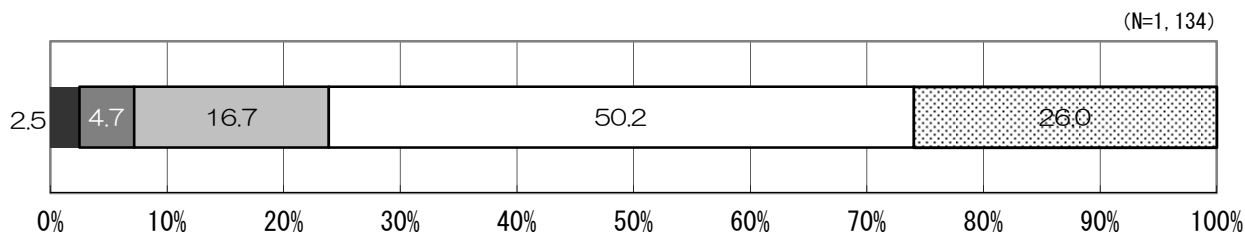
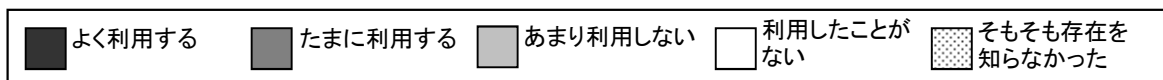
#### 【参考：年齢別クロス】



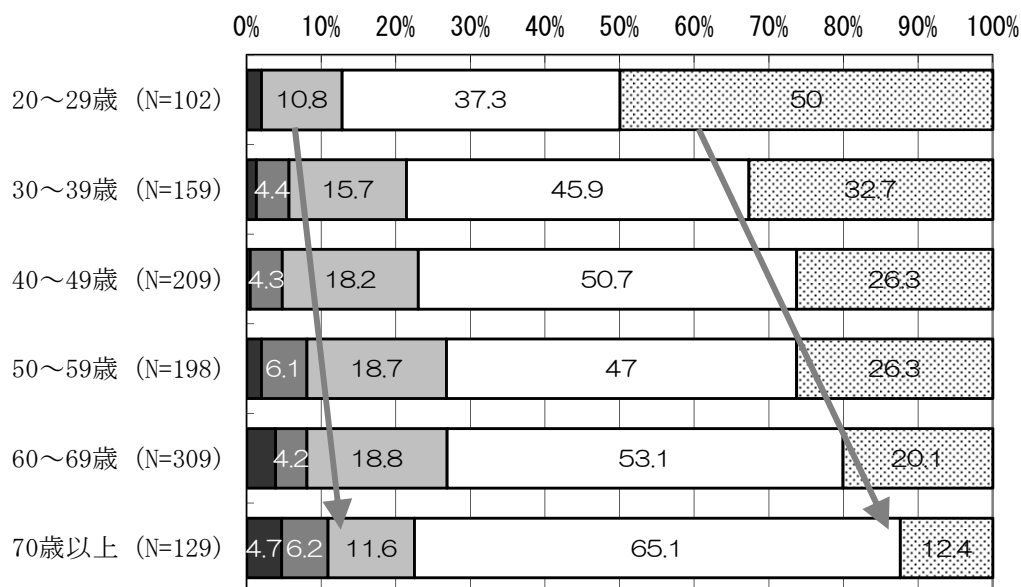
## あいあいセンター

福祉交流施設や男女共生を目的にホールや研修施設を備えたあいあいセンターは、年数回以上利用が7.2%と少なく、一方で26.0%が施設の存在を知らず、また知っていても50.2%の人が利用していない状況。

年齢別では、高齢者になるほど、利用頻度が増え、認知度も高くなっていることから、特定の目的をもった人が利用・認知する施設といえる。



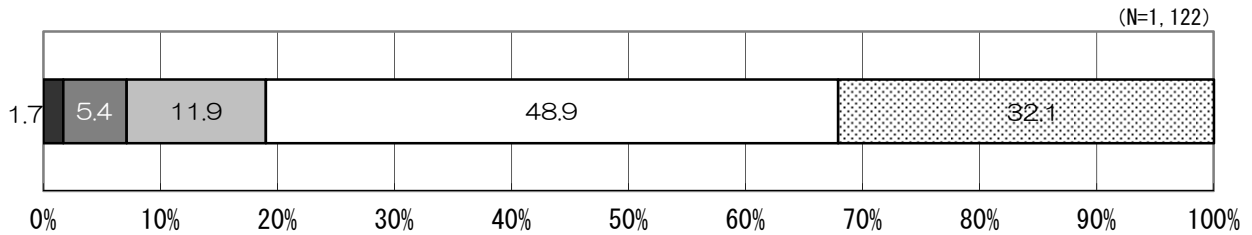
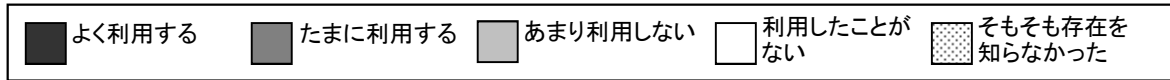
### 【参考：年齢別クロス】



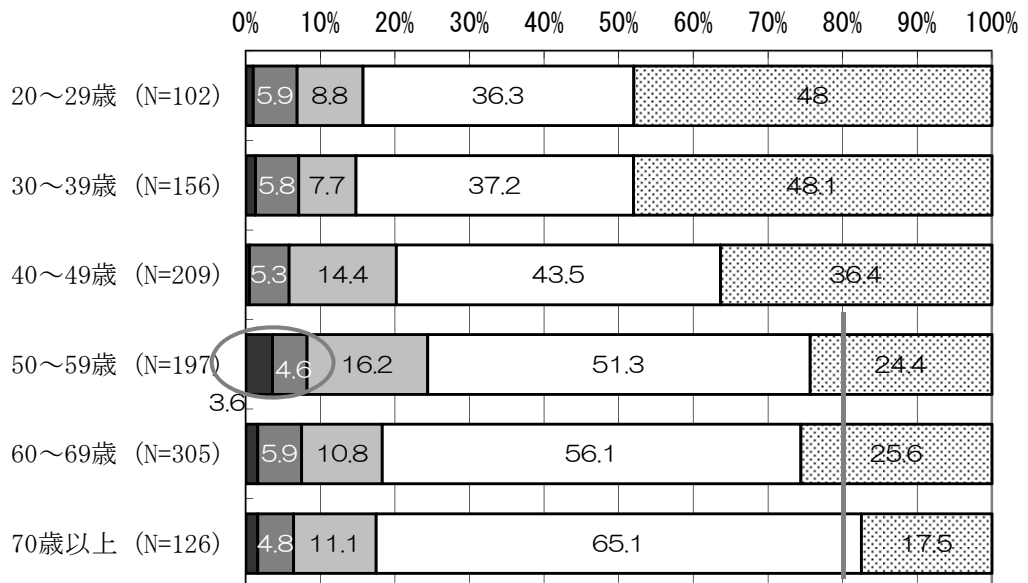
## 勤労者総合センター

働く人々の福祉の増進と教養の向上を目的に、ホールや会議室を備えた勤労者総合センターは、年数回以上利用するが7.1%と少なく、施設の利用を知らなかったとする回答が約3割ある。

年齢別では、50～59歳の年数回利用するが最も多いが8.2%と1割未満である。施設の利用を知っているかについては高齢者になるにつれて認知されていくが、70歳以上でも約2割が知らないとなっている。専門性がある施設であるが利用率が低く、また認知もなかなかされていない施設といえる。



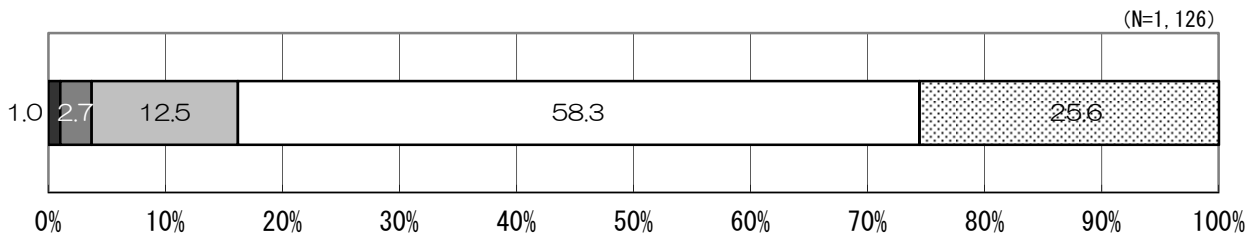
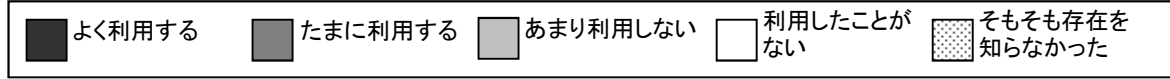
### 【参考：年齢別クロス】



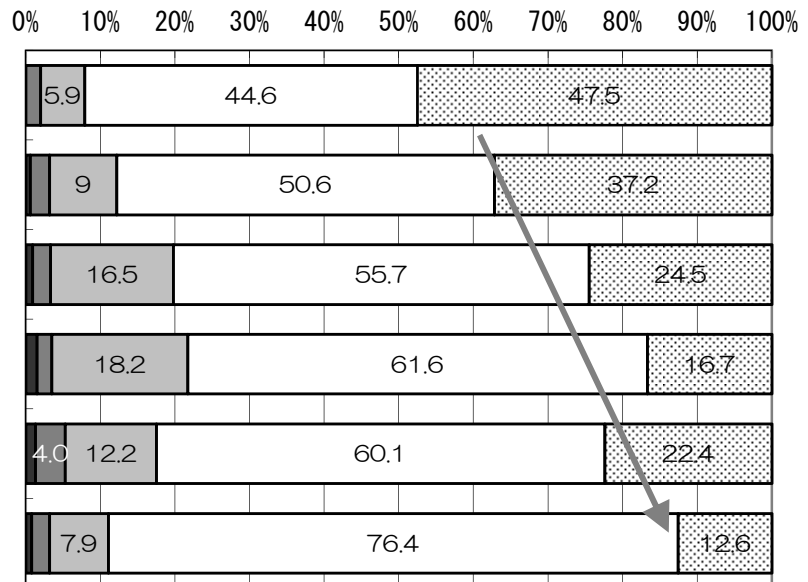
## 児童女性会館

児童や女性のための使用することを目的に、ホールや集会施設を備えた児童女性会館は、年数回以上利用するが3.7%と少なく、施設の存在を知らなかったとする回答は25.6%と多い。

年齢別では、全ての年代で年数回利用するが5%未満と少ない。施設の存在を知らないとする人も、高齢者になるに連れて少なくなり、70歳以上で約1割となる。高齢者になるほど認知されるが、利用率が非常に低い施設といえる。



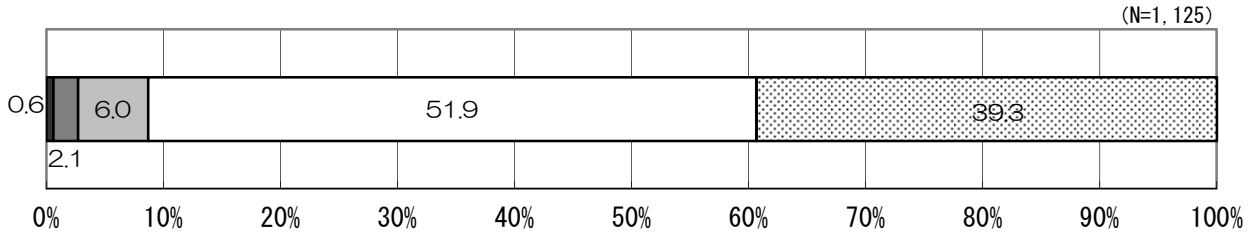
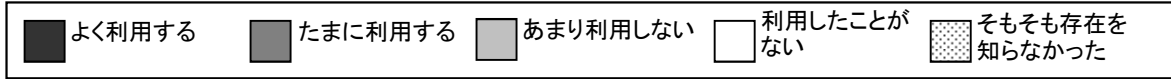
### 【参考：年齢別クロス】



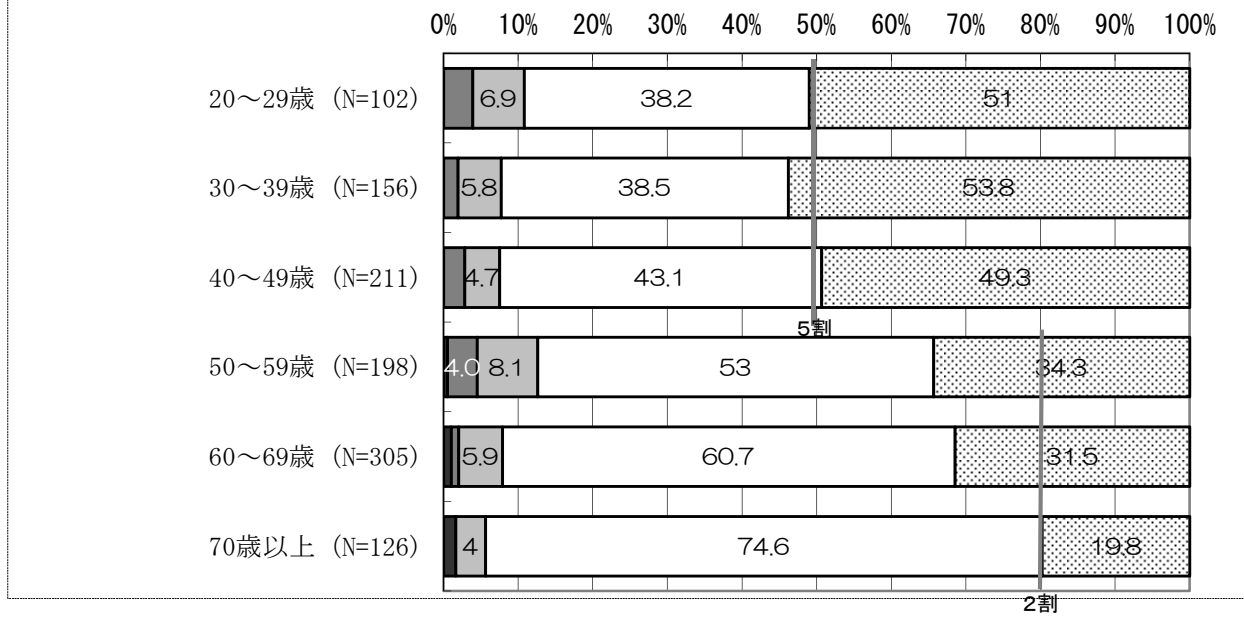
## 教育文化センター

市内全域を対象とする生涯学習の拠点となる教育文化センターは、年数回以上利用するが2.7%と少なく、施設の利用を知らなかったとする回答は39.3%と約4割を占める。

年齢別では、全世代を通して年数回利用する5%未満と少ない。施設の利用を知らない意見では、49歳未満で約5割を占めており、50歳以上で認知度も増加するが70歳以上でも約2割が施設の利用を知らないとしている。利用頻度が少なく、存在もほとんど知られていない施設といえる。



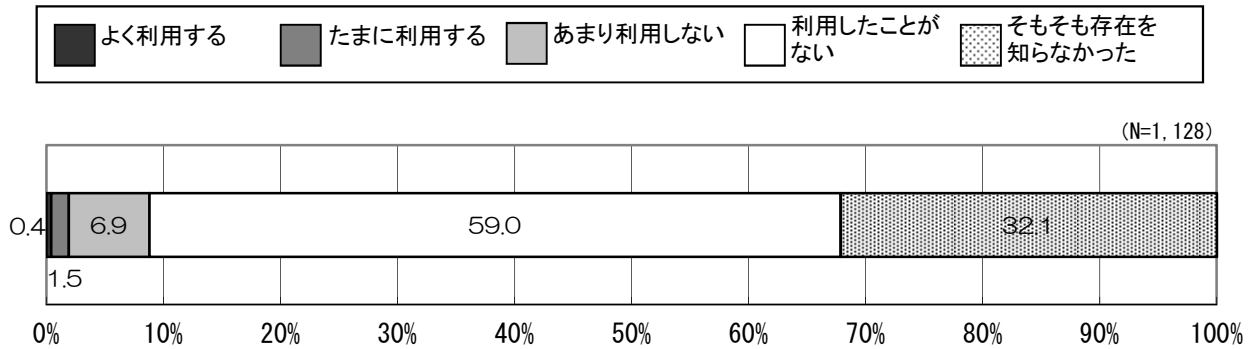
### 【参考：年齢別クロス】



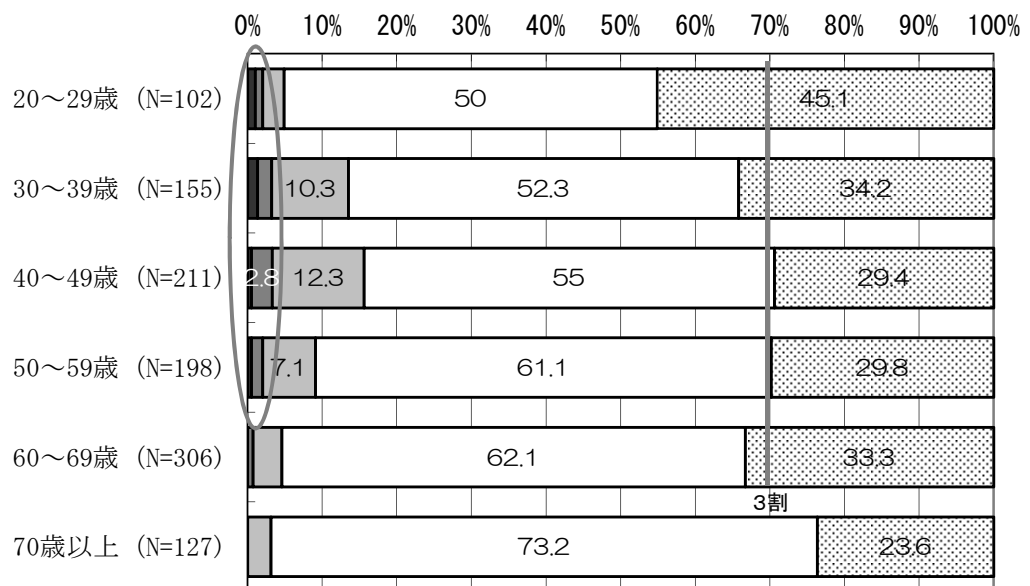
## 子ども支援センター

子育てや教育上の問題などについての相談窓口であり、子どもの一時預かりなどを行う子ども支援センターは、年数回以上利用するが非常に少なく、施設の存在を知らなかったとする回答は32.1%となっている。

年齢別では、年数回以上利用するが20～59歳のみで5%未満と少ない。また69歳未満では約3割が施設の存在を知らなかったとしている。専門性がある施設であるが利用率が非常に低く、また認知もされていない施設といえる。



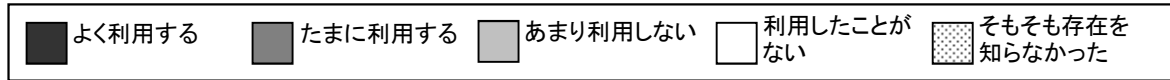
### 【参考：年齢別クロス】



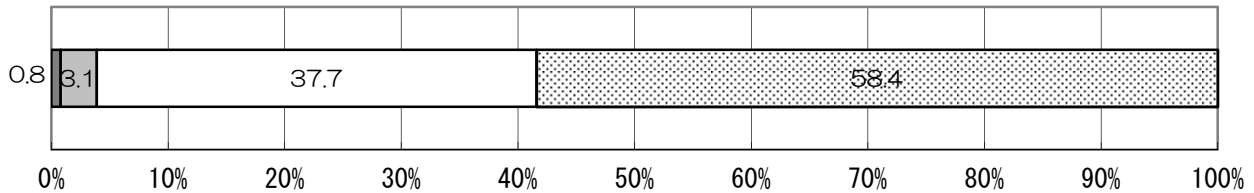
## 八番丁館

社会福祉協議会やシルバー人材センターの事務所となる八番丁館は、ほとんどの人が利用しておらず、また施設の存在も知られていない。

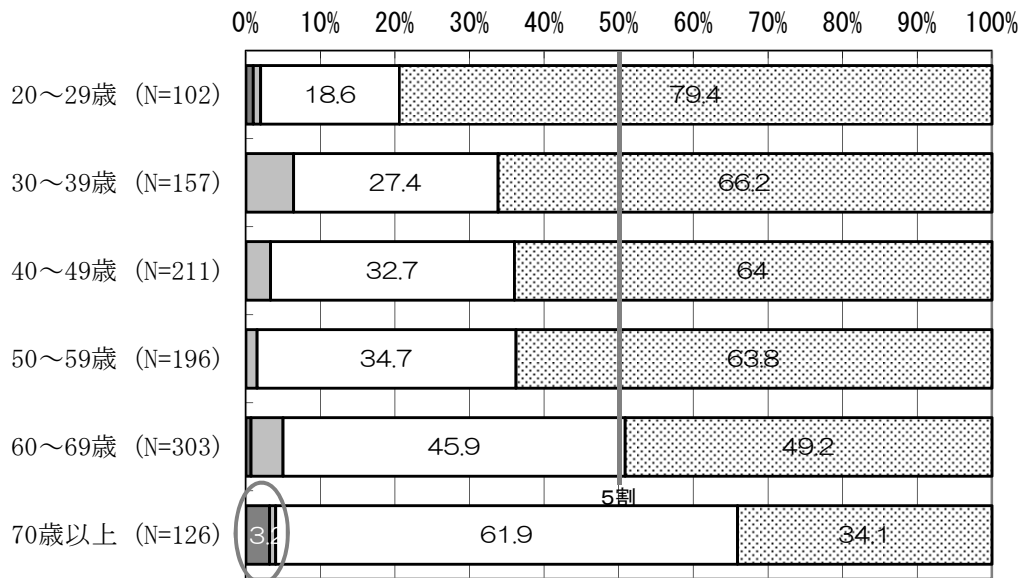
年齢別では、年数回以上利用するのは70歳以上の3.2%だけとなる。施設の存在を知らないのは69歳未満で5割以上となっている。市民に直接サービスを提供する場としていないこともあり、ほとんど利用されておらず、認知度の低い施設といえる。



(N=1,123)



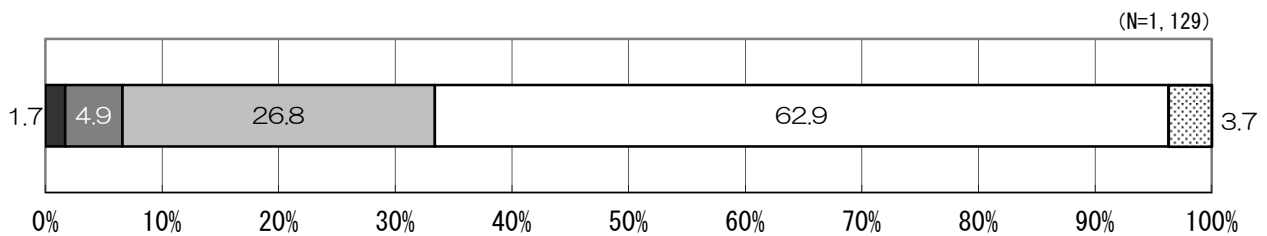
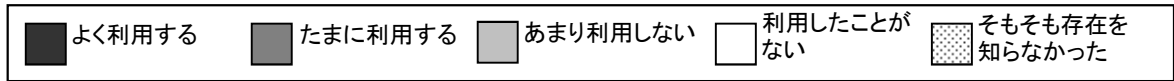
### 【参考：年齢別クロス】



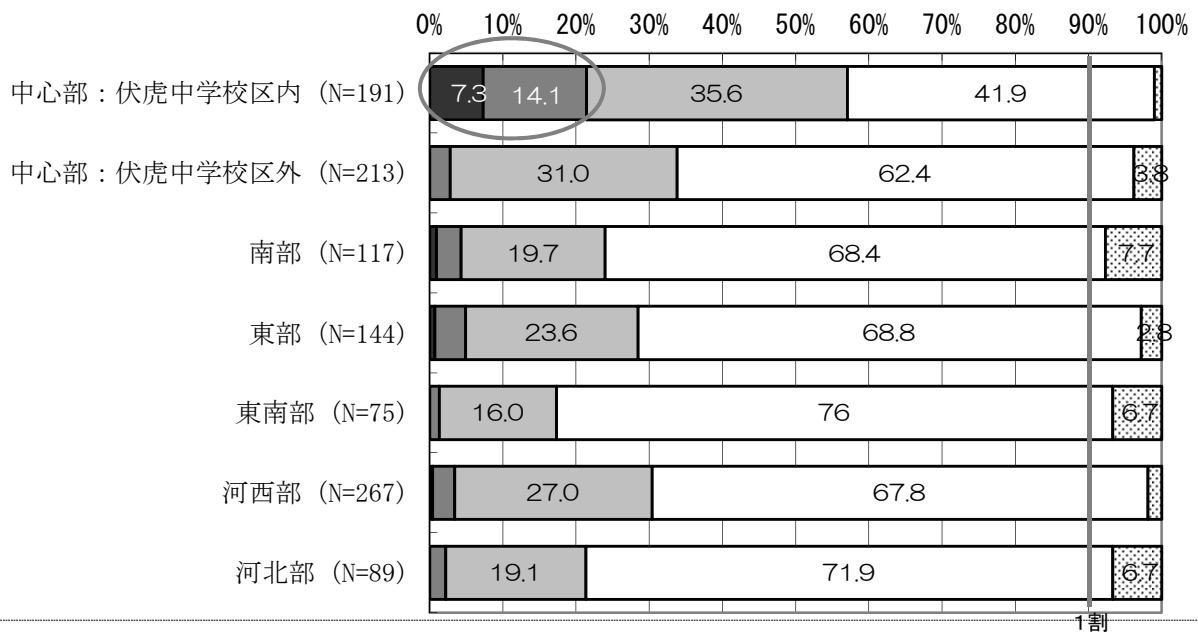
## 城北公園

城北公園は、年数回以上使用するが6.6%と少なくないが、施設の存在を知らないとする意見は3.7%と少ない。

居住区別では、伏虎中学校区内は約2割以上が年数回以上利用するとしている。施設の利用を知らなかったとする意見は、各居住区で1割未満とすくない。城北公園地下駐車場と併設していることから市民に広く認知されていると想定できるが、公園の利用者は近隣住民であり、身近な公園といえる。



### 【参考：居住区クロス】

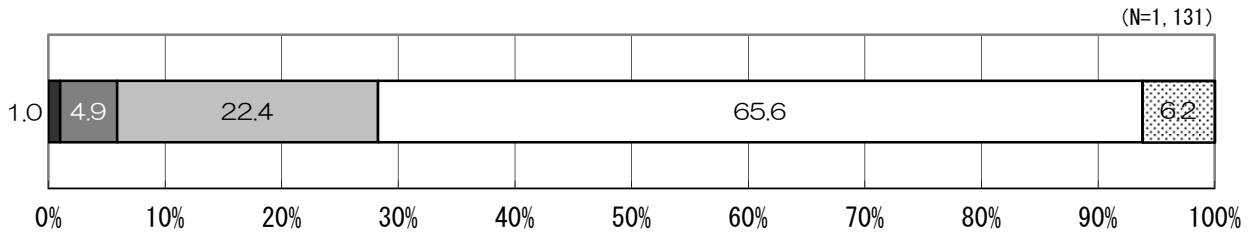
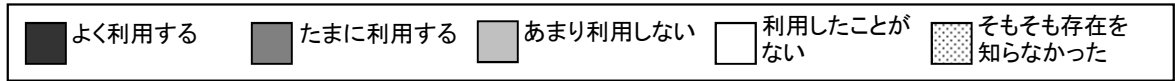




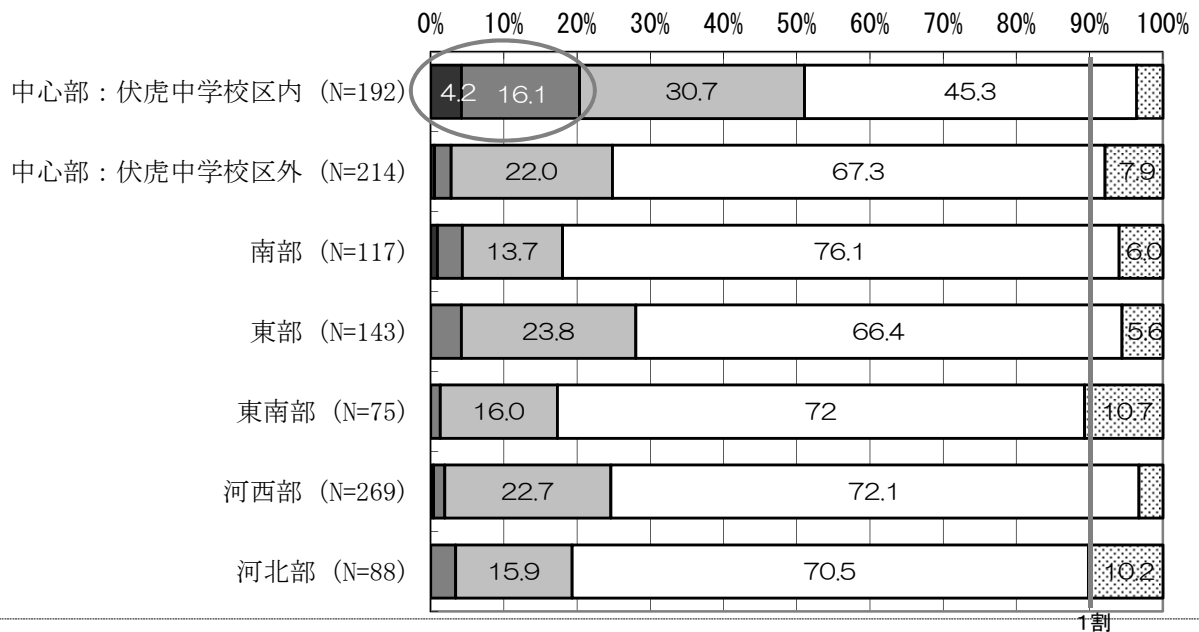
## 本町公園

本町公園は、年数回以上使用するが5.9%と少なくないが、施設の存在を知らないとする意見は6.2%と少ない。

居住区別では、伏虎中学校区内は約2割が年数回以上利用するとしている。施設の存在を知らなかったとする意見は、各居住区で1割程度とすくない。過去に本町公園地下駐車場があったことから市民に広く認知されていると想定できるが、公園の利用者は近隣住民であり、身近な公園といえる。



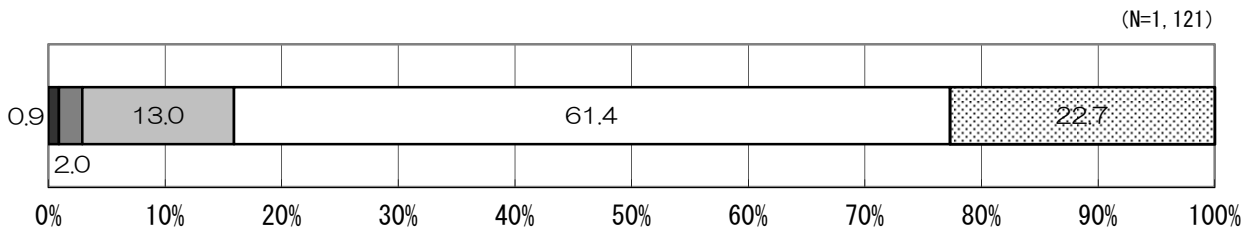
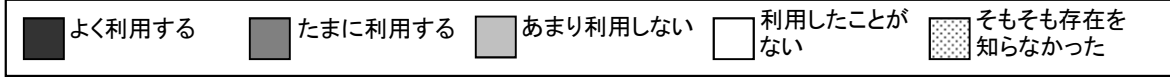
### 【参考：居住区クロス】



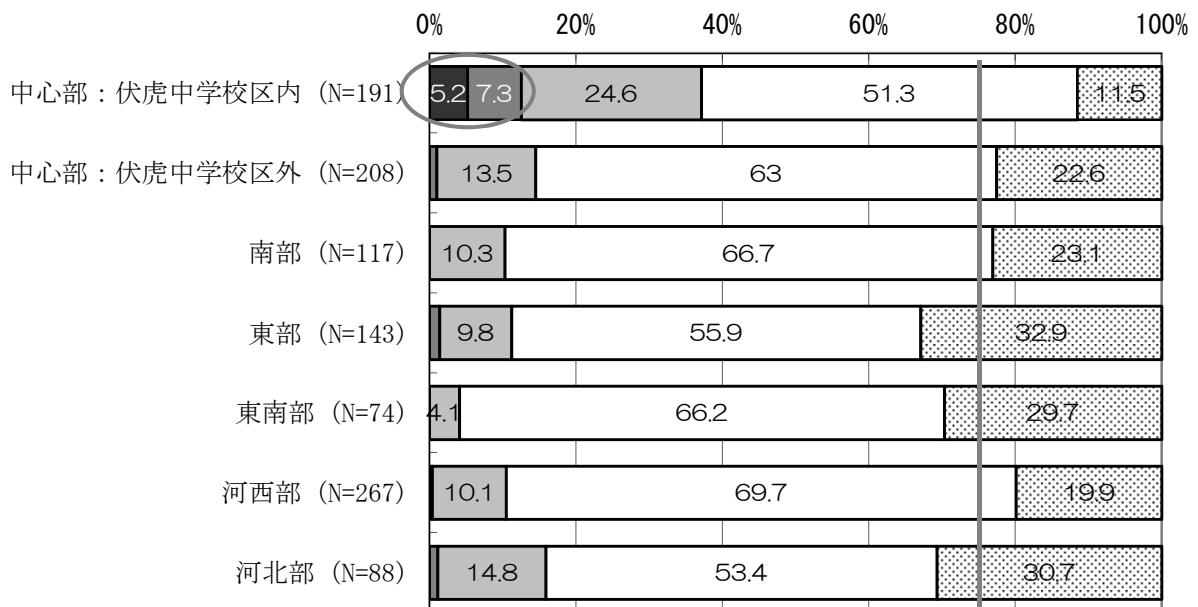
## 雄湊公園

雄湊公園は、年数回以上使用するが2.9%と非常に少なく、施設の存在を知らないとする意見は22.7%と多い。

居住区別では、伏虎中学校区内は約1割以上が年数回以上利用している。施設の存在を知らなかったとする意見は、各居住区で2～3割程度と多い。公園の利用者は近隣住民であるがあまり利用されておらず、また他居住区にもあまり認知されていない公園といえる。



### 【参考：居住区クロス】

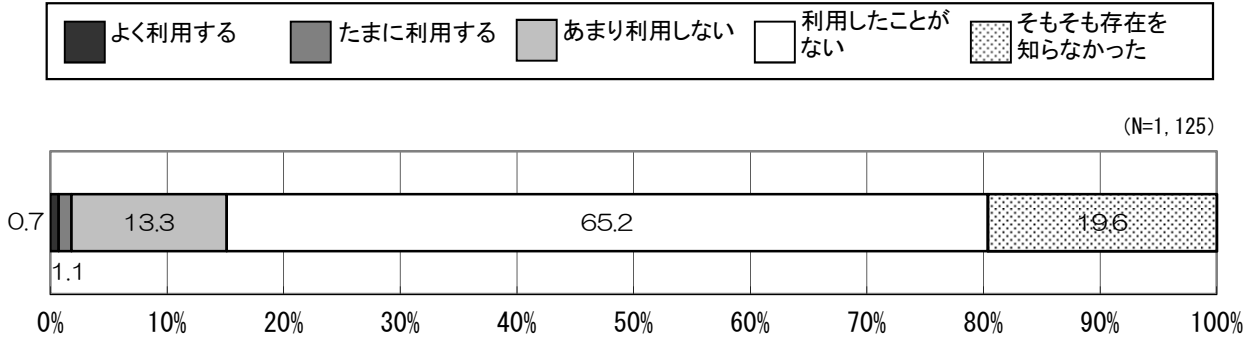


2～3割

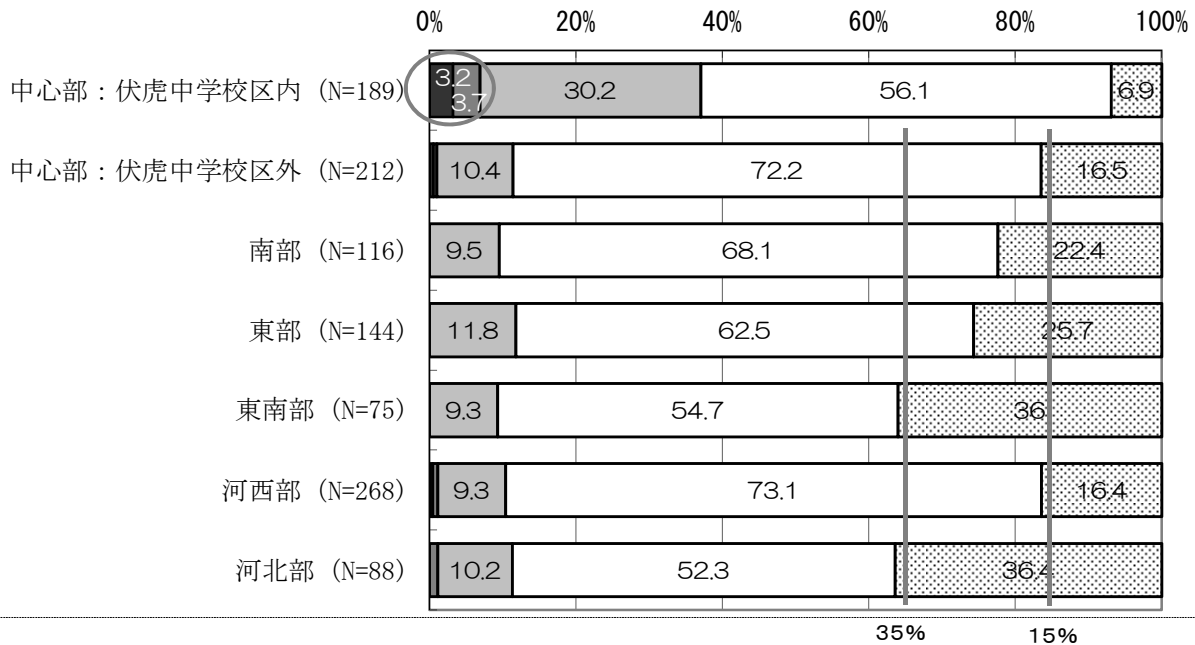
## 汀公園

汀公園は、年数回以上使用するが1.8%と非常に少なく、施設の存在を知らないとする意見も19.6%と多い。

居住区別では、伏虎中学校区内は6.9%が年数回以上利用するとしている。施設の存在を知らなかったとする意見は、各居住区で15~35%とばらつきはあるが多い。公園の利用者は近隣住民であるがほとんど利用されておらず、また他居住区にもあまり認知されていない公園といえる。



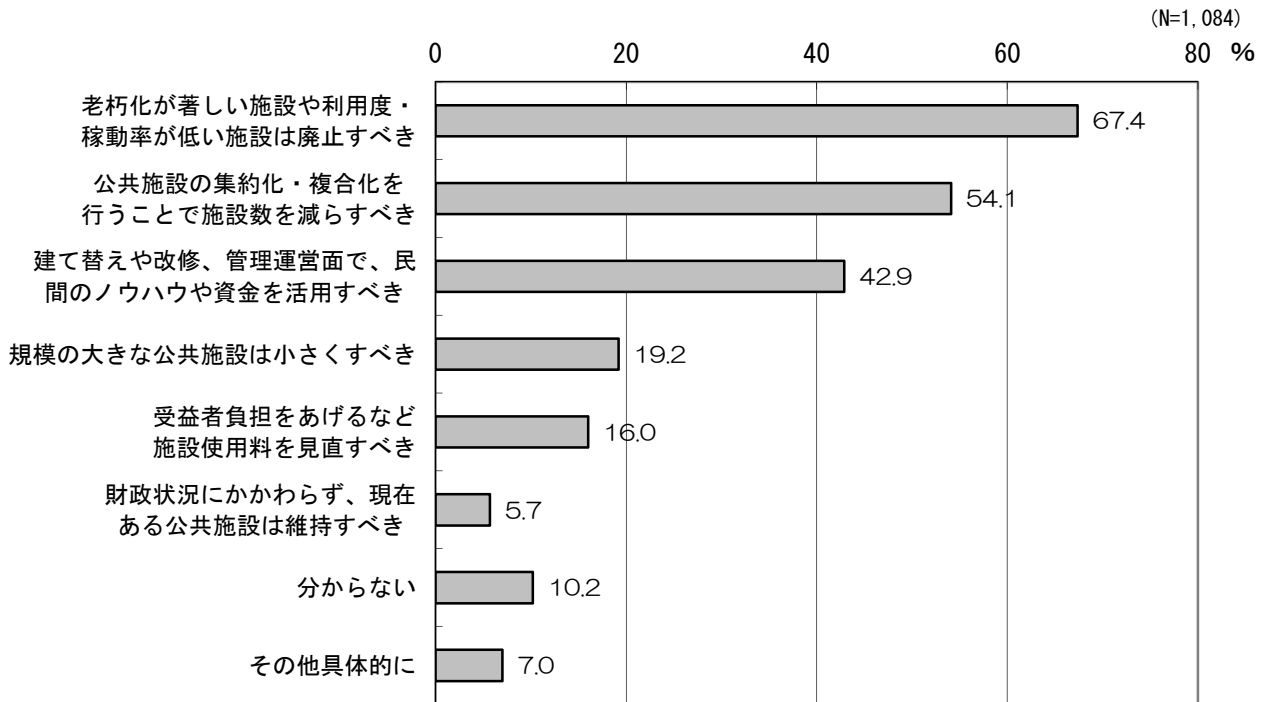
### 【参考：居住区クロス】



## 公共施設の再整備

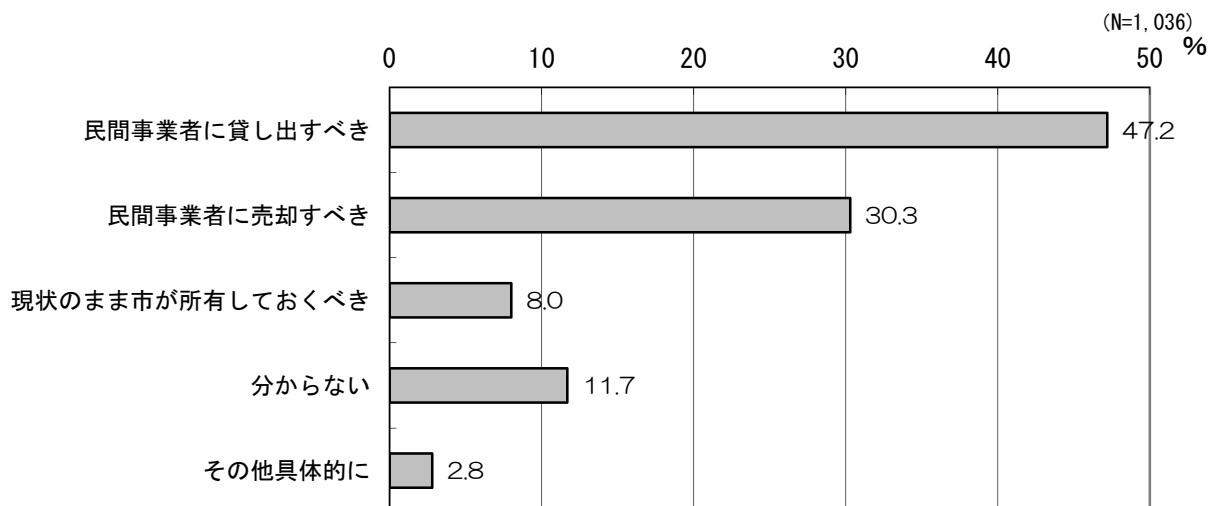
### ② 市内の公共施設に対する今後の方策として、どれが適切だと思いますか。 (適切だと思うもの全てに○)

「老朽化が著しい施設や利用度・稼働率が低い施設は廃止すべき」が67.4%(731件)「公共施設の集約化・複合化を行うことで施設数を減らすべき」は54.1%(586件)、「建て替えや改修、管理運営面で、民間のノウハウや資金を活用すべき」は42.9%(465件)で上位を占めている。



### ③ 市役所周辺の公共施設の再整備により生まれた未利用地は、市の資産としてどのようにすべきだと思いますか。(1つに○)

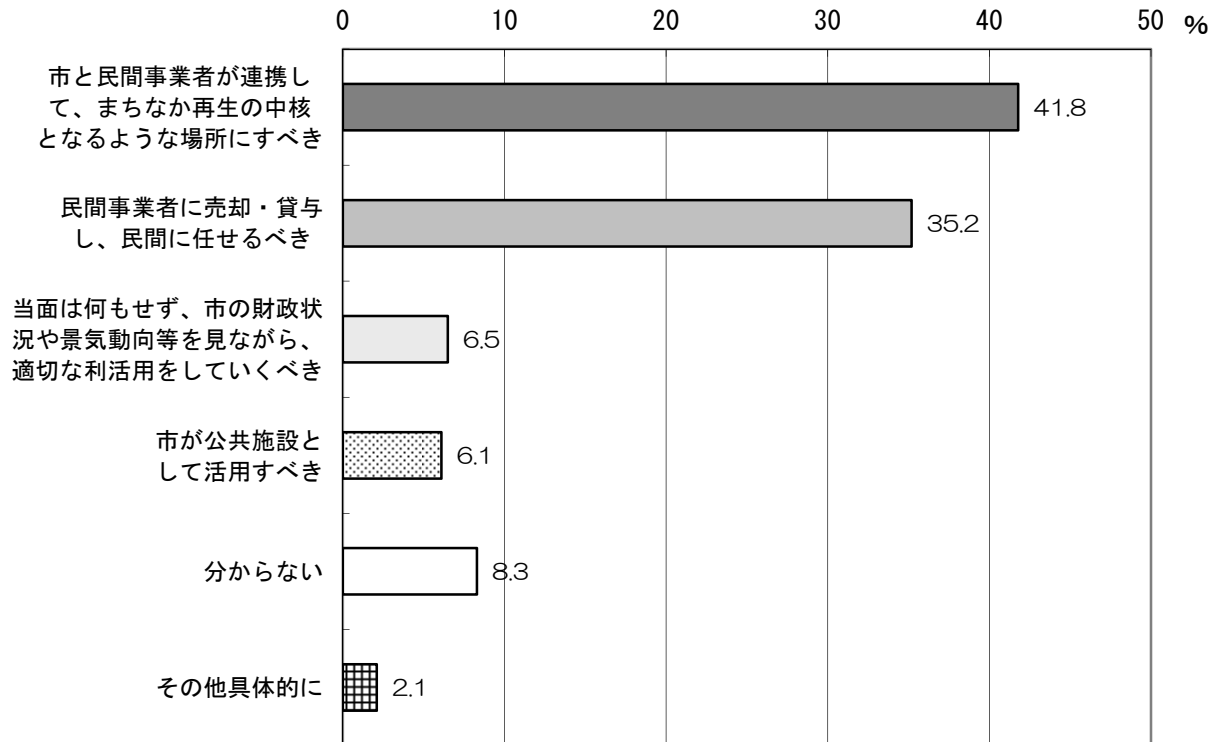
市の資産を、民間事業者に「貸し出すべき」が47.2%(536件)「売却すべき」は30.3%(344件)とする意見が上位2位を占めている。



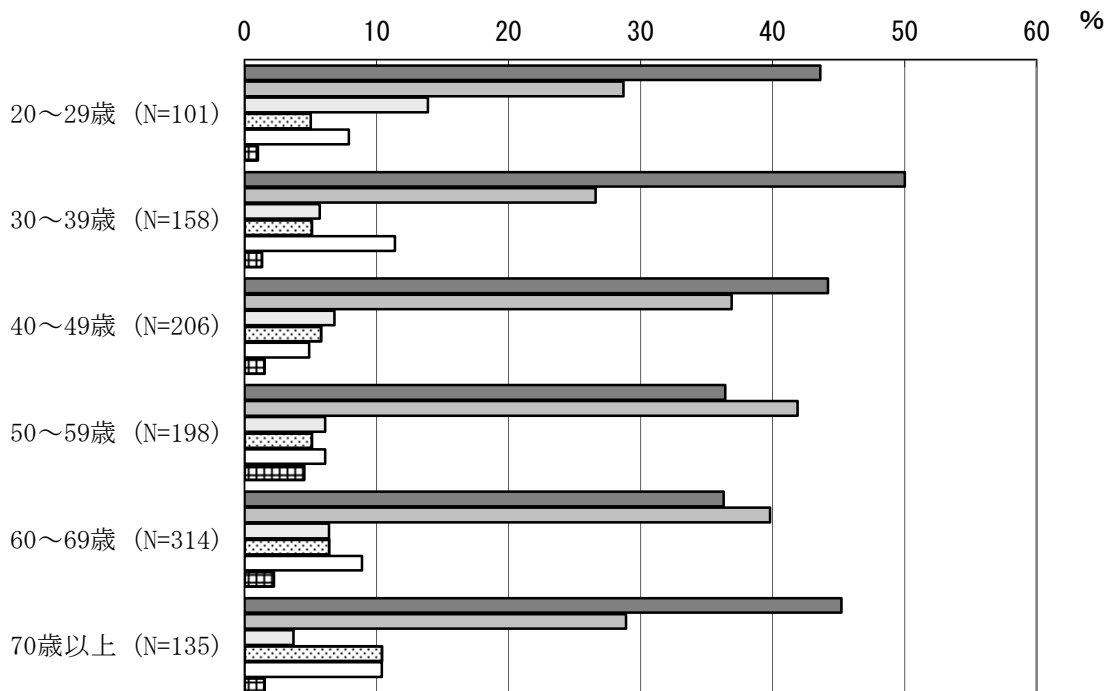
④ 市役所周辺の公共施設の再整備により生まれた未利用地は、どのように利活用していくべきだと思いますか(1つに○)

再整備によって生まれた未利用地は「市と民間事業者が連携して、まちなか再生の中核となるような場所にすべき」が41.8% (476件) 「民間事業者に売却・貸与し、民間に任せるべき」は35.2% (401件) とする意見が上位2位を占めている。  
 年齢別では、50～69歳では、「民間事業者に売却・貸与し、民間に任せるべき」が上位となっている。

(N=1,039)

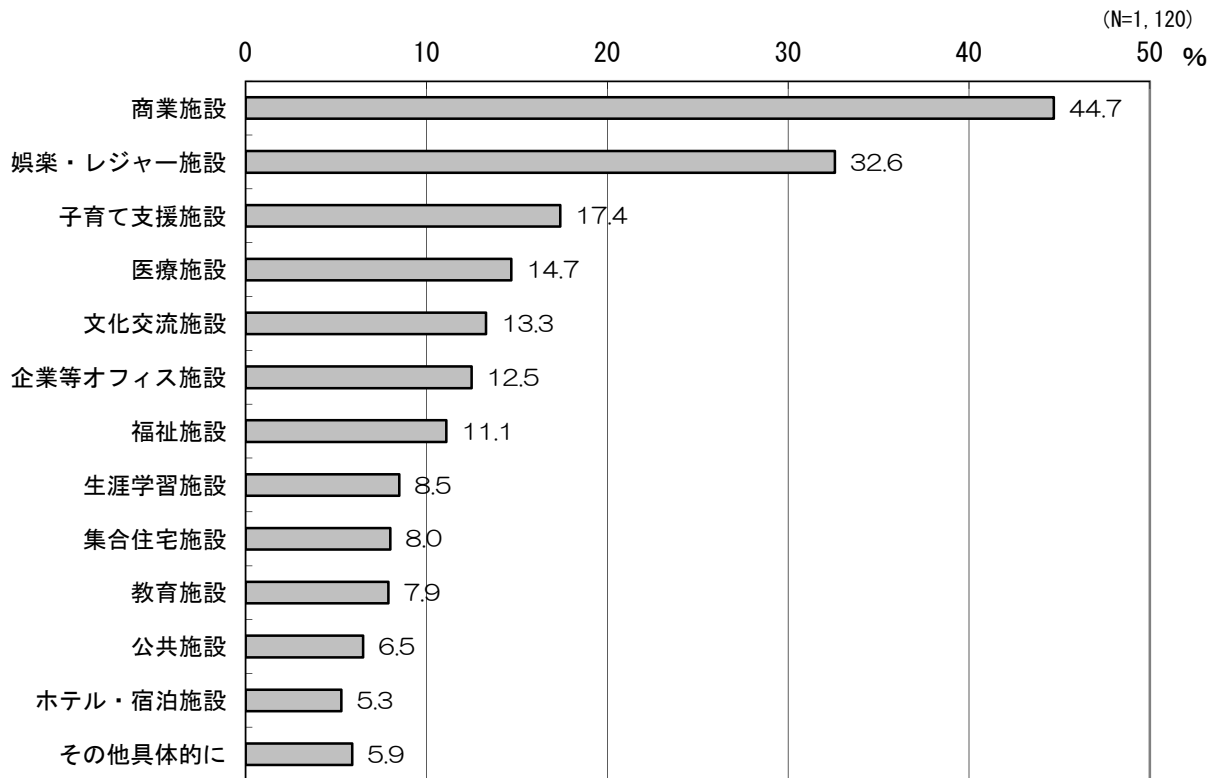


【参考：年齢別クロス】



⑤ 【まちなかエリア】の活性化・再生を図るため、どのような施設が必要だと思いますか  
(2つまで〇)

活性化・再生を図るための施設は「商業施設」44.7%(501件)「娯楽・レジャー施設」32.6%(365件)とする意見が突出して多い。次に20%を割り「子育て支援施設」「医療施設」「文化交流施設」と続く。

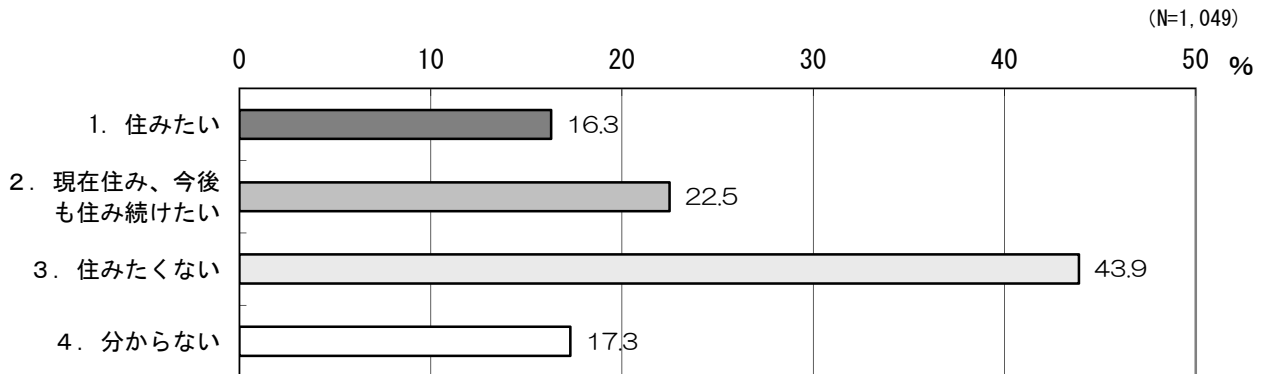


## まちなか居住

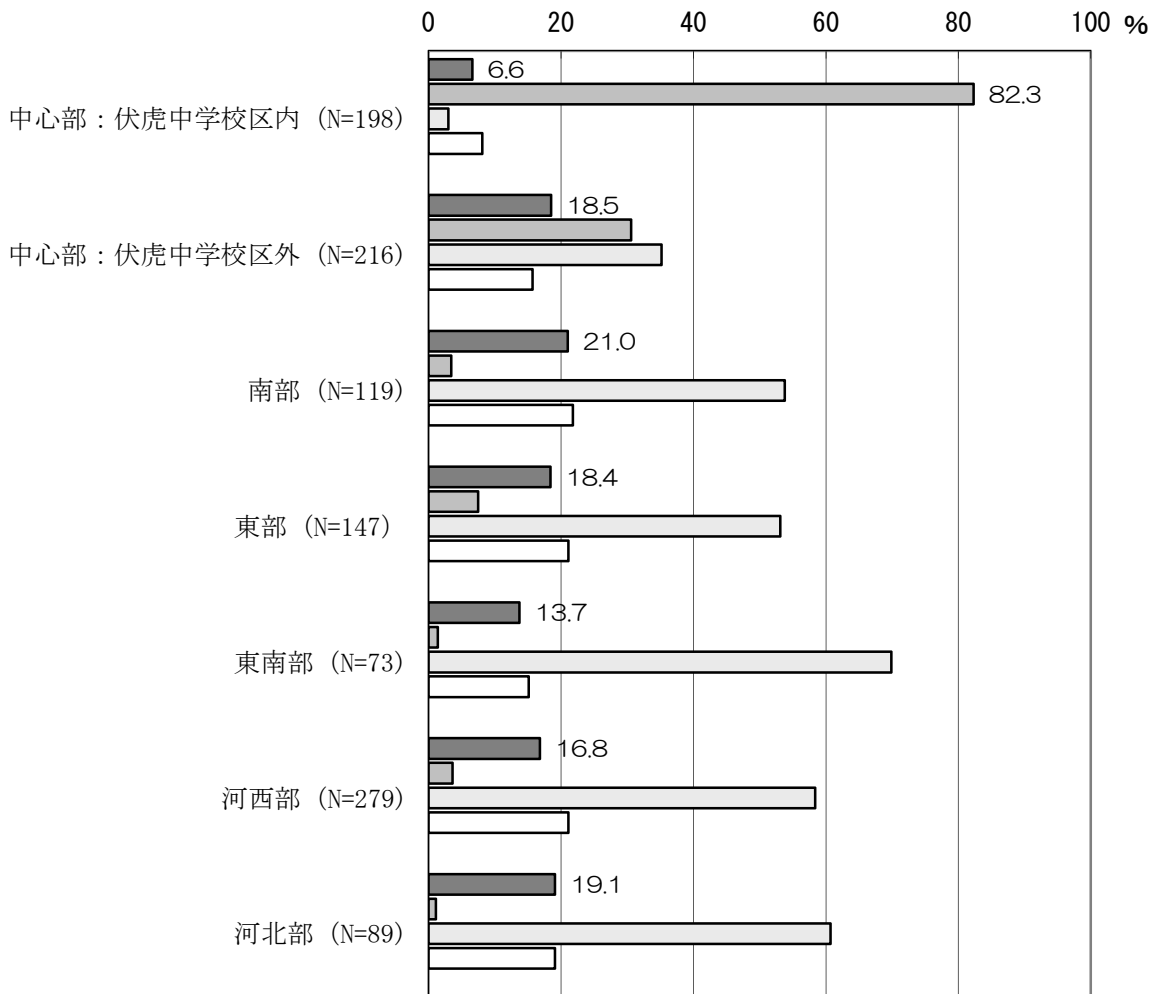
### ⑥ あなたは【まちなかエリア】に住みたいですか。(1つに○)

約4割がまちなかエリアに「住みたい」「住み続けたい」と考えている。

居住区別では、伏虎中学校区内では、約9割が「住みたい」「住み続けたい」を占めている。校区以外でも約2割が「住みたい」としており、市域全域からみて、まちなかエリアで居住したいとする一定のニーズがあると考えられる。



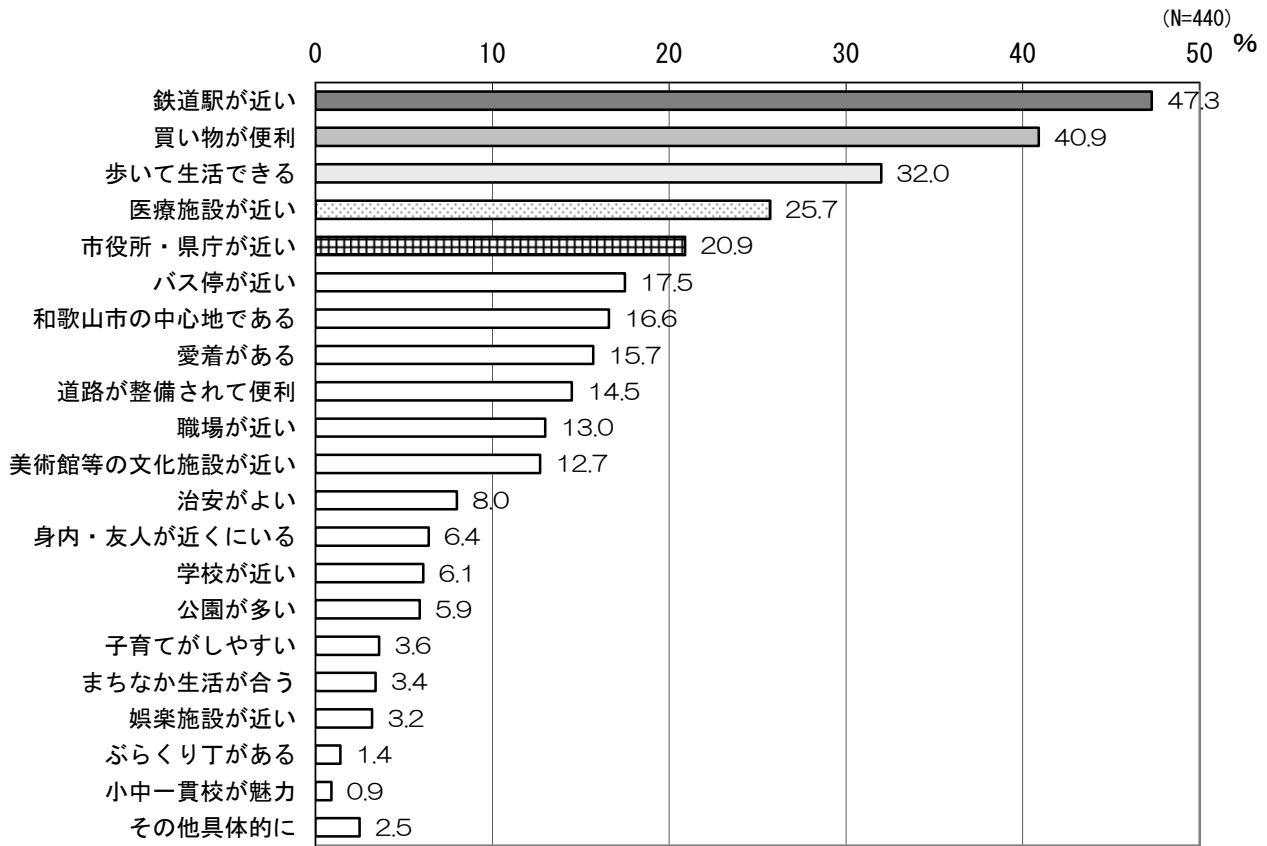
#### 【参考：居住別クロス】



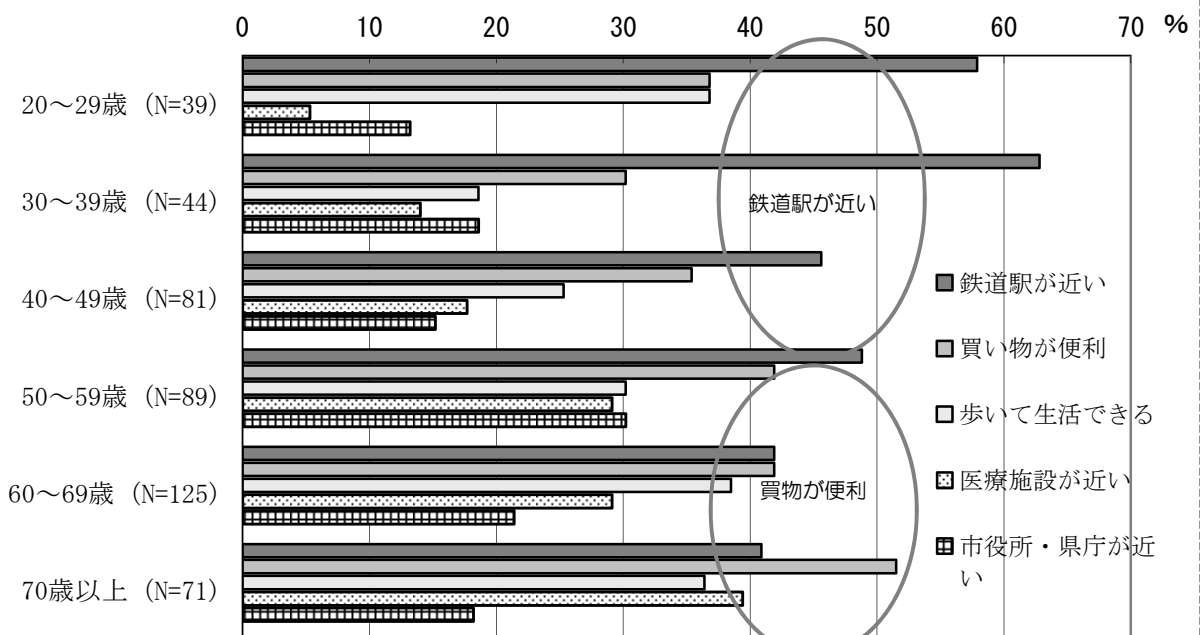
⑥で「1. 住みたい」「2. 現在住み、今後も住み続けたい」と答えた方だけにおたずねします。

⑦【まちなかエリア】に住みたい理由は何ですか。(3つまで○)

まちなかエリアに住みたい理由は、「鉄道駅が近い」が約5割、「買い物が便利」が約4割、「歩いて生活できる」が約3割で、上位3位を占めている。年齢では20～59歳までの働く世代では「鉄道駅が近い」ことが求められており、50歳以上については「買物が便利」「歩いて生活できる」が求められている。



【参考：年齢別クロス】 ※総合の上位5項目について



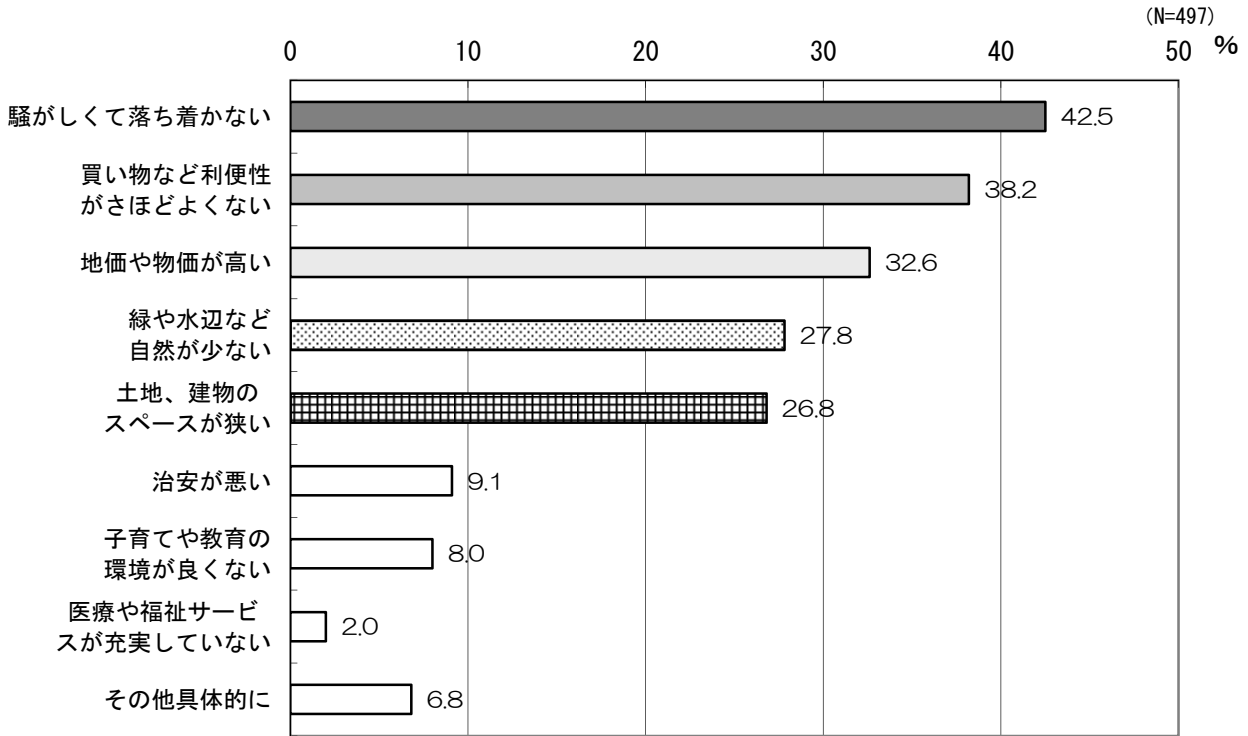


⑥で「3. 住みたくない」と答えた方だけにおたずねします。

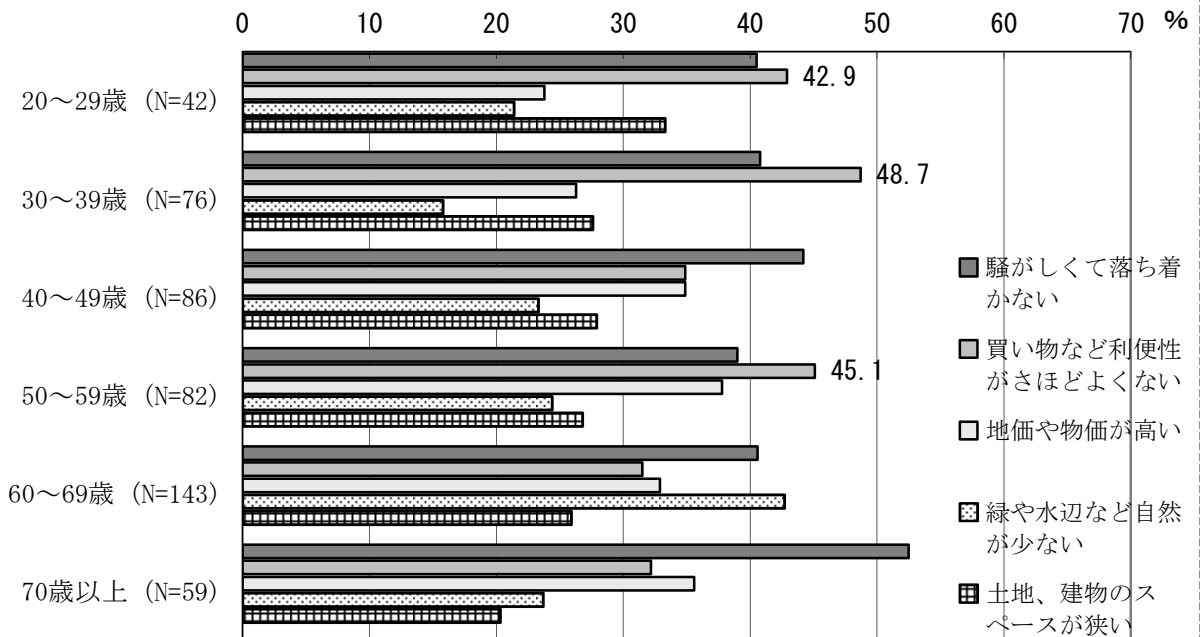
⑧【まちなかエリア】に住みたくない理由は何ですか。(2つまで○)

まちなかエリアに住みたくない理由は、「騒がしくて落ち着かない」、「買い物など利便性がさほどよくない」、「地価や物価が高い」が、上位3位を占めている。

年齢別では、「騒がしくて落ち着かない」が各年齢で意見が多く、また20～39歳、50～59歳では「買い物など利便性がさほどよくない」という意見が多い。



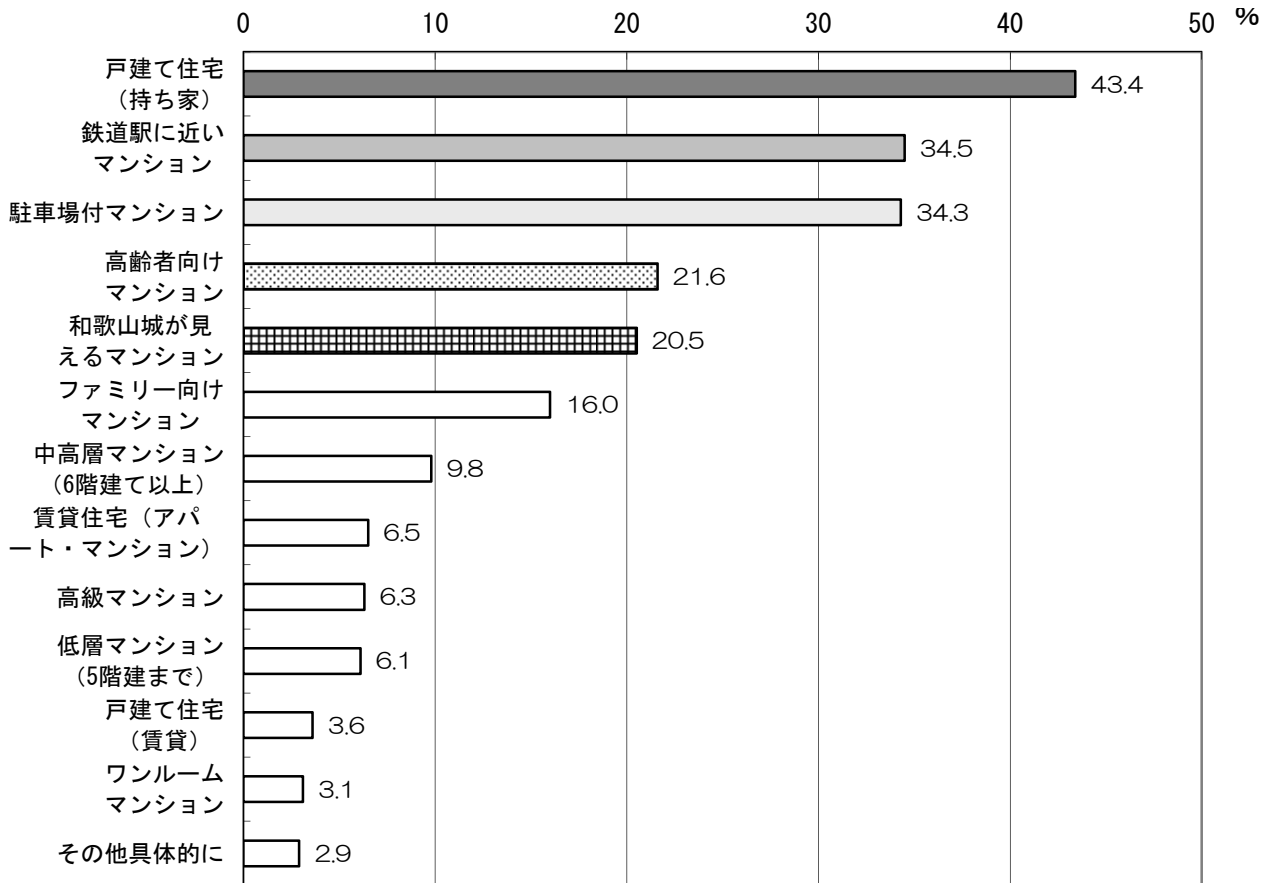
【参考：年齢別クロス】 ※総合の上位5項目について



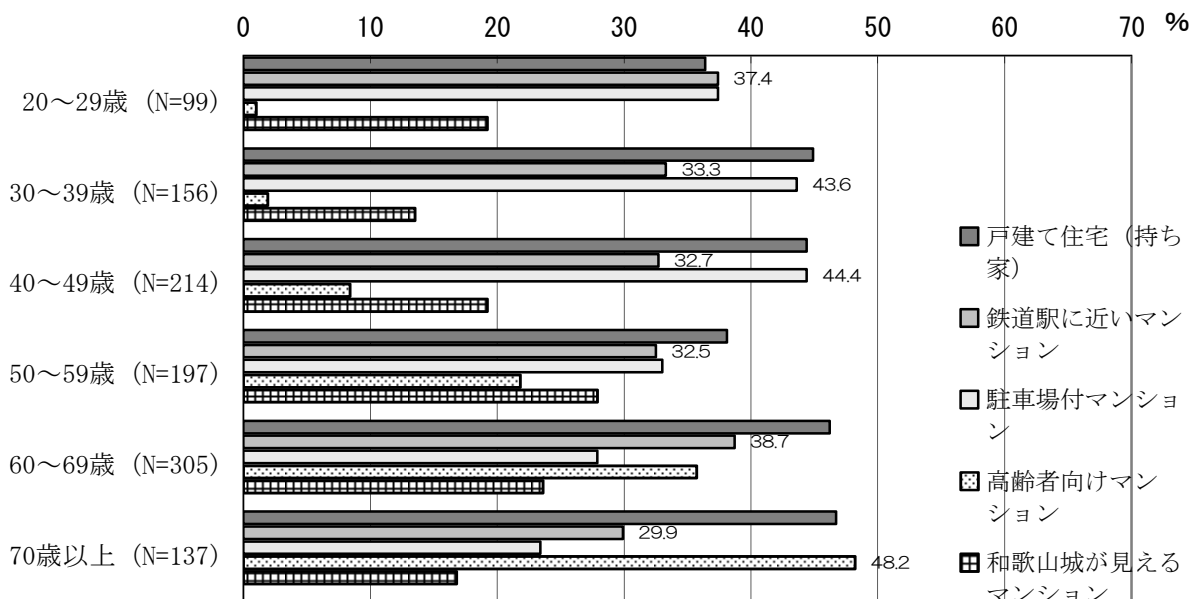
⑨ 【まちなかエリア】に住むとしたら、どんな住宅に住みたいですか。(3つまで○)

まちなかエリアに住む住宅は、「戸建て住宅」が約4割、「鉄道駅に近いマンション」「駐車場付マンション」が約3割で、上位3位を占めている。

年齢別では、各年代で「戸建て住宅」が多いが、特に30～49歳、60歳～が約4割を越えて求められている。「鉄道駅に近いマンション」は各年代で約3～4割で安定したニーズをもっている。「駐車場付マンション」は20～49歳の若い世代、子育て世代に多く、60歳～は3割以下に減少している。

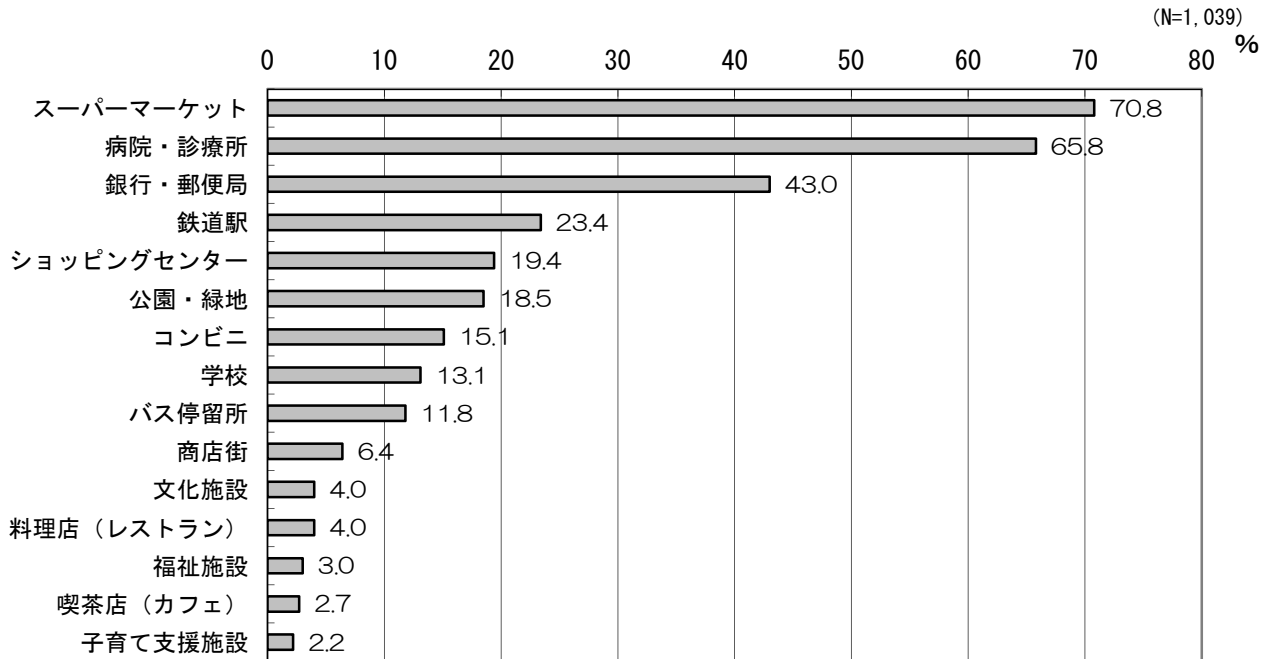


【参考：年齢別クロス】 ※総合の上位5項目について



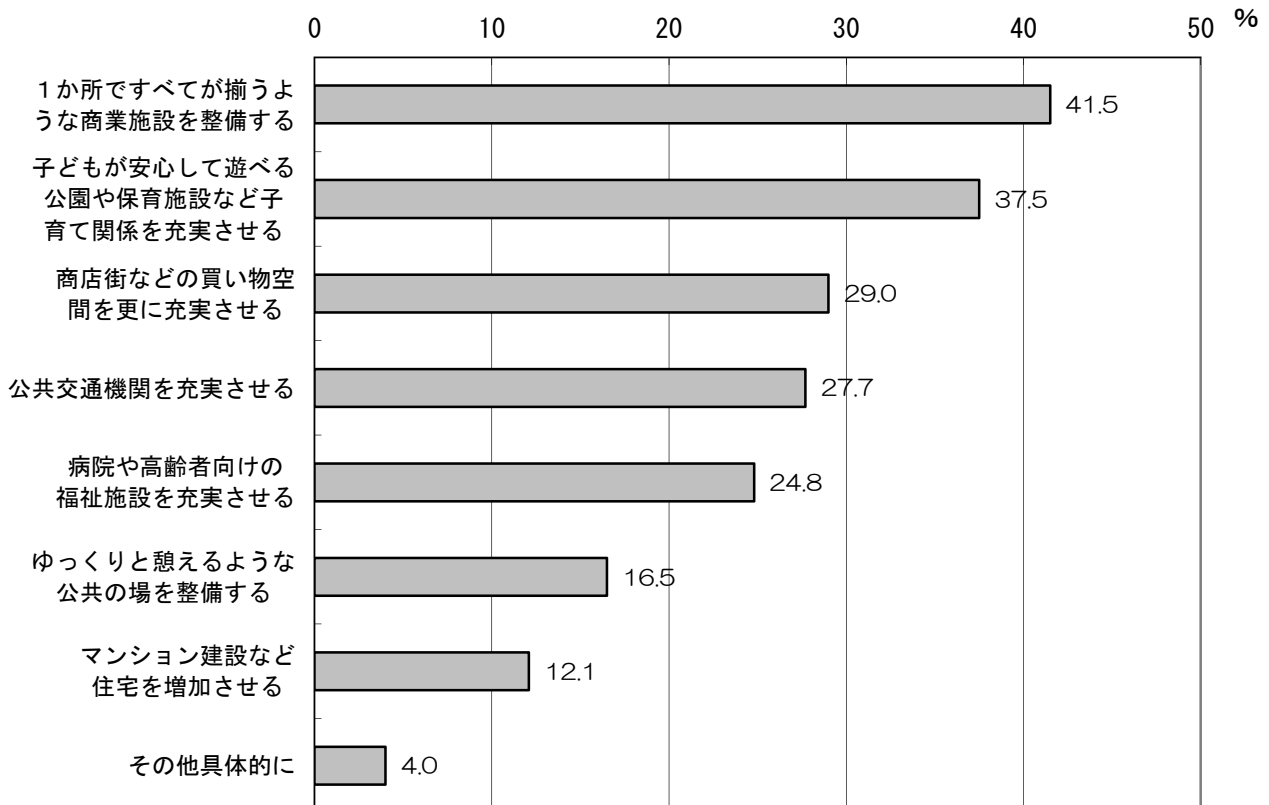
⑩ 【まちなかエリア】に住むとしたら、歩いていける範囲に必要な施設は何ですか。(3つまで○)

歩いていける範囲に必要な施設は、「スーパーマーケット」70.8%、「病院・診療所」65.8%、「銀行・郵便局」43.0%が際立って多く、上位3位を占めている。



⑪ どのようにすれば【まちなかエリア】に住む人が増えると思いますか。(2つまで○)

住む人が増えるためには、「1か所ですべてが揃うような商業施設を整備する」「商店街などの買い物空間を更に充実させる」といった商業機能の充実を求める意見が多い。この他、「子どもが安心して遊べる公園や保育施設など子育て関係を充実させる」が約4割を占め多い意見となっている。

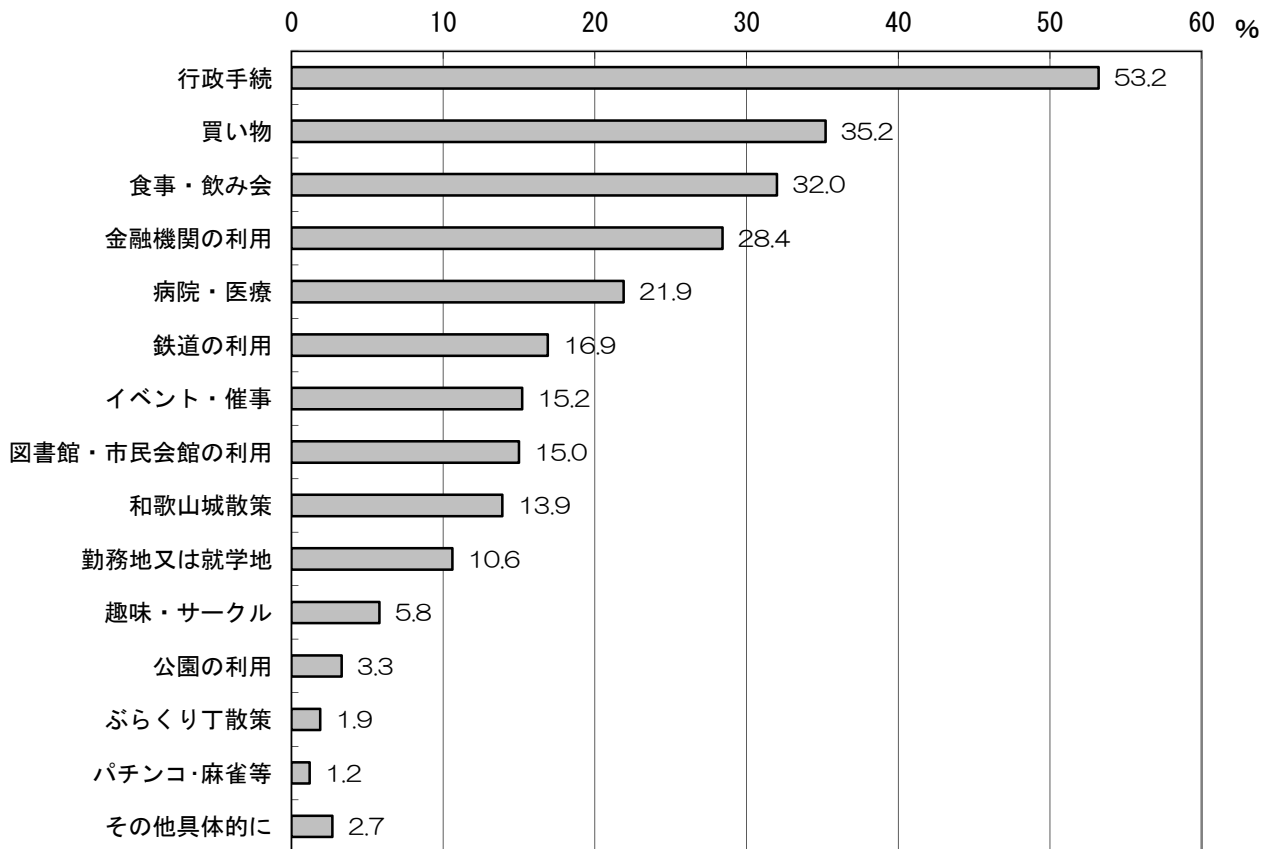


## 来訪者を増やす方法

### ⑫ あなたが普段【まちなかエリア】に訪れる目的は何ですか。(3つまで○)

まちなかエリアを訪れる目的は、「行政手続」がもっとも多く約5割を占めている。これに続き「買い物」「食事・飲み会」「金融機関の利用」となっている。行政手続がまちなかエリアを訪れる主なきっかけとなっており、市役所等の公共施設は市民をまちなかエリアへ誘導する機能を有している。

(N=1,135)



まちなかエリアに多くの人を訪れるために、回答者自身があればいいと思うものは、「ショッピングセンター」「美味しい飲食店」「百貨店、デパート等」であるのに対し、市外、県外からの来訪者が求めているものは、「和歌山城を活かした観光施設」という意見が圧倒的に多く約6割を占めている。この他、約2割ほどの意見となるが「屋内イベント会場（コンサートホールなど）」「ショッピングセンター」がある。

⑭ あなたは【まちなかエリア】に  
何があれば、より多く訪れますか。  
(3つまで○)

(N=1,121)

⑮ 【まちなかエリア】に、京阪神から  
の来訪者を増やすには何が必要で  
すか。

(N=735)

